

30年のあゆみ (1994-2024)



田彦コミュニティセンター

〒312-0063 茨城県ひたちなか市田彦950-128
TEL 029(274)5222 FAX 029(276)1609
Mail: tabiko-k@bz04.plala.or.jp 田彦コミセン

田彦中学区地域づくりの会

田彦中学区 地域づくりの会

7月 春季スポーツ大会 (ボウリング)	7月 春季スポーツ大会 (ボウリング)	7月 春季スポーツ大会 (ボウリング)	7月 ホール七夕飾り
9月 グラウンド ゴルフ大会	10月 秋季運動会	10月 秋季運動会	10月 秋季運動会
11月 田彦コミュニティまつり			11月 コミュニティ まつり
			11月 コミュニティ まつり
			11月 コミュニティ まつり
1月 雪遊び	2月 芸能発表会	2月 芸能発表会	3月 ひな飾り

田彦コミュニティセンター



1階 玄関ホール



1階 集会室



1階 会議室



1階 和室



2階 実習室



2階 会議室



ホールの壁画 題名：幻想に遊ぶ(マヤ)
(寄書き抜粋)真っ赤な太陽・青い空・鮮やかな花の中で情熱的に踊り、神を敬い、神を愛する彼等を見たい。勝田の歴史を深く相通ずるものを感じながら古代を愛し、現代を愛しつつ幻想に遊び、この壁画を作成しました。

工芸家：須藤 了三 1961-2011
元茨城県美術展覧会委員長



2階 児童室

目 次

発刊のごあいさつ	1
祝 辞	2
田彦中学区地域づくりの会の紹介	3
実践部・広報委員会の活動	4
自治会の活動	8
30年のあゆみ	13
歴代の役員	17
田彦中学区防犯パトロール隊紹介	21
ひたちなか地区防犯連絡員協議会田彦中学区分会紹介	21
田彦小学区子ども会紹介	22

【資料編】

思い出のアルバム	7・12・20
田彦地区コミュニティ組織形成協議(平成5年1月)	24
田彦公民館整備基本構想(平成4年6月)	29
田彦中学区地域づくりの会設立総会(平成6年5月)	38
田彦中学区地域づくりの会会則	51
田彦コミュニティセンター利用団体推移	56
田彦コミュニティセンター利用状況推移	57
田彦コミュニティセンター建物等改修歴	58

発刊のごあいさつ



田彦中学区地域づくりの会
会長 内 田 雅 恵

田彦中学区地域づくりの会設立30周年を迎えるにあたり、設立時にご尽力をいただきました先人の方々、また、これまで地域の皆さま方の本会事業へのご理解とご協力をいただいていますことに、心より敬意と感謝を申し上げます。

平成6年5月に田彦中学区地域づくりの会設立総会が開かれ誕生いたしました。当時の勝田市として6番目のコミュニティ組織となります。また、同年11月には勝田市と那珂湊市が合併し新たな市政誕生のもと、田彦中学区のコミュニティのあり方を地域住民とともに一歩ずつ進めてまいりました。

当時、モダンな田彦公民館の開所と地域づくりの会の発足および自治会編成により、一気に人と人の交流が盛んになり秋季大運動会や田彦コミュニティまつり等の大きな賑わいが出来ました。

近年、人口減少、少子高齢化が当地にも進みつつあるなか、新型コロナによる影響で一層、人と人のつながりの希薄化が進んだような気がします。

東日本大震災や令和6年能登半島地震でも地域コミュニティの大切さが再認識されています。東日本大震災で早期復興をとげた要因に地域コミュニティの存在があります。

平時では、気づかない「人と人、地域とのつながり」の大切さを再認識させられます。次の世代につなぐ一助として30年のあゆみを編纂致しました。

今後とも、地域の皆様方が自治会や本会の事業を通じ、出会い・ふれあいを創出し「当地に住んでよかった」を目指します。

今回の30年あゆみの発行にあたり、関係者の皆様に御礼申し上げます。

祝 辞



ひたちなか市
市長 大 谷 明

このたび、田彦中学区地域づくりの会が設立30周年の記念すべき節目を迎えられましたことを、心からお慶び申し上げます。

田彦中学区地域づくりの会におかれましては、平成6年5月の設立から、会員の皆様方の力強い結束のもと、地域社会発展のために多大なるご尽力をいただいておりますことに、心より敬意と感謝の意を表します。

各地域においては、平成22年に市民参画によりつくりあげた「ひたちなか市自立と協働のまちづくり基本条例」に定める「まちづくりの主役は市民である」との理念のもと、自主的な取り組みが活発に行われております。

貴会におきましても、平成25年4月から田彦コミュニティセンターを運営されておりますとともに、コミュニティまつりや芸能発表会など、創意工夫を加えた多彩な行事が行われており、市民と行政の協働のまちづくりが着実に進められていると感じております。

また、活動を通しまして、住みよい地域づくりに寄与されているほか、人と人、人と地域を結び、地域社会の絆を深めることに大いに貢献いただいております。

今後とも、皆様方の活動がさらに充実したものとなりますことをご期待申し上げますとともに、引き続きひたちなか市のまちづくりにお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

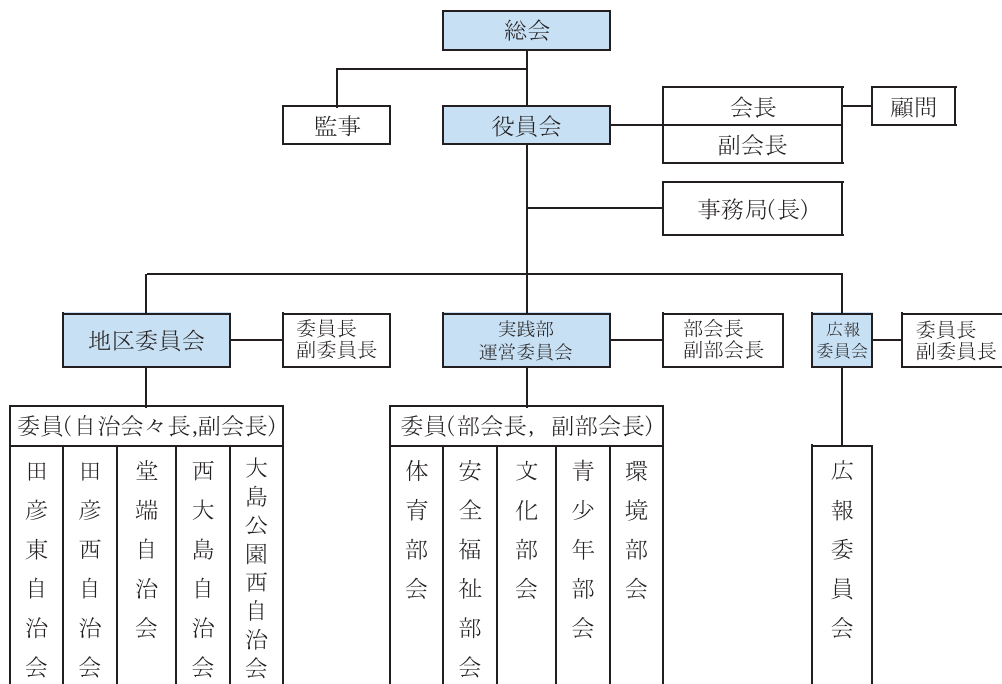
結びに、貴会の今後ますますのご発展と、皆様方のご健勝とご多幸を祈念申し上げます、お祝いの言葉といたします。

■ 田彦中学区地域づくりの会の紹介

平成4年4月に田彦中学校が開校しました。

勝田市の方針として、中学校区単位に地域コミュニティ組織を形成するとの立場から、活動の拠点である田彦公民館の開館（平成6年4月）に合わせて、5つの自治会と組織づくり、体制整備が行われ平成6年5月14日に「田彦中学区地域づくりの会」設立総会が行われ誕生しました。

- ・ **会員** : 自治会や自治組織を形成している世帯であり、年会費は、300円。
- ・ **組織と体制**



・ 総会

- ① 定時総会は、年度初めに開催
- ② 事業報告および決算報告，事業計画及び予算，人事（会長，副会長，監事の選出），会則の改版等

・ 役員会

- ① 年10回程開催
- ② 事業の推進（事業を通じ、地域住民の親睦，共助の推進等）
「ひたちなか市自立と協働のまちづくり基本条例」に基づく、まちづくり市民会議の推進

・ 地区委員会

自治会長および副自治会長で構成し、自治会等の連絡調整や活動の提言

・ 実践部会

市民憲章等に基づく、健康・スポーツ，交通安全・福祉，文化・芸術、健全な青少年育成，環境美化等の実践的取組み

・ 広報委員会

活動の記録と情報発信（コミュニティ田彦紙 年3回発行）

■ 実践部・広報委員会活動

◇ 体育部会

活動方針は、①地域住民の健康づくりの推進、②地域のスポーツ、レクリエーション活動を促進し、地域住民の体力づくりと心身の健康増進を推進しています。

秋季運動会の競技種目の企画や子供や家族、高齢者を含めた共通のスポーツイベントの企画実践等を行っています。また、市スポーツ協会に加盟し協会が実施する事業の支援を行っています。

発足当時は、大島コミセンと合同開催したソフトボールやバレーボール大会。

平成8年度から単独開催によるドッチボールやソフトボール大会、高齢者レクリエーション大会等。この年の秋季運動会では観客を含む3,000名の参加があったと記録されています。

平成27年度は、ヘルスバレーボール、ファミリーバトミントン、グラウンド・ゴルフ大会等、時代とともに種目も変わりました。

令和5年度はグラウンド・ゴルフ、ノルディックウォーキング、モルックと競技内容が団体戦から個人で気軽に楽しめるスポーツに変化してきました。

今後とも幅広い世代がスポーツを通じ、地域の繋がりと心身の健康等、楽しい出会いの企画を提供します。



(勝田市最後H6年10月 第1回秋季大運動会)

◇ 安全福祉部会

福祉ボランティア活動をととして、住民相互の福祉向上を図り、交通事故の危険箇所等による災害をなくし、安全で快適なまちづくりの促進を推進しています。

少子高齢化社会になり、事業内容も時代の変化に対応しながら地域の安全と福祉活動を関係団体や機関と連携して実施しています。

平成6年から危険箇所点検を交通安全母の会と実施し、後に通学路等のグリーベルト設置等の改善になりました。

平成8年から22年度まで放置自転車クリーン作戦の実施を行いました。

平成13年度から第1回地区交通安全大会を開催し、広く地域への交通安全啓蒙活動を実施しています。



(平成30年福祉講習会開催模様)



(第21回田彦中学区交通安全大会)

平成25年度から地域福祉に力点を置いた地域福祉講座の開催を始めました。特に高齢化社会が進み介護や認知症サポーターへの関心の高まりに合わせた講座の開設等を行っています。

◇ 文化部会

地域の皆様が芸術文化に親しみ、また芸術文化を通じて心豊かな生活が図れるような活動を日々目指しています。

設立当初の文化教室は、「田彦の歴史（講師：鈴木 清先生）」でした。

一口に「文化」といっても、その意味するところはあまりに広いのですが、文化部会では、歴史的施設の見学会や歌舞伎などの伝統芸能鑑賞や美術館等の芸術作品の鑑賞等を企画し、地域の芸術・文化の向上を目指しています。

平成20年から文化教室として田彦の史跡などをめぐることから始まり、平成23年からは市内、県内のほか近県の歴史や古墳や埴輪の勉強に範囲を広げて活動を続けています。

平成18年度から地域の方の芸術作品の発表の場として、地域文化展の開催を行い後に田彦コミュニティまつりでの作品展へと発展しました。

芸能発表会は、地域の方の芸能を発表する場として開催しています。今後も誰でも気軽に芸術文化活動へご参加いただけるよう、地域の皆様とともに活動を進めます。



◇ 青少年部会

青少年部会は、青少年の非行防止の促進。地域内の連帯意識の醸成につとめ、子供たちとのふれあいの場をつくり、非行防止を図るために青少年健全育成活動の推進を目指し活動しています。

青少年健全育成の一環として平成9年から1泊2日の夏季キャンプの実施。また平成10年から日帰りでのふれあいスキー教室を実施してきました。どちらも参加者は小学校高学年～中学生の子ども達。引率は、部会員と地域・先生方を含むボランティアです。親や先生たちと距離を測りづらい年頃でも、自然の中で私たちと過ごす分には意外と素直で生き生きし頼もしい一面も見せてくれました。

平成11年からふれあいあそびの会を開催し、親子木工教室や移動美術館を開催。

平成15年からは年9回の絵本読み聞かせを開催。部会員が年々絵本や紙芝居だけでなく、パネルシアター・カーテンシアターといった大物も制作し披露しました。

子ども達は、もちろん保護者の方々も一緒に遊び楽しみ、地域に馴染んでいただけたらと思います。



す。今後も時代の変化やニーズに合わせ、参加する誰もが「楽しいからまた行こう！」と集ってくれる機会を提供し、田彦地区の子ども達の『サードプレイス』を目指します。

◇ 環境部会

地域の環境美化の促進。省資源運動を進めながら地域の環境を浄化し、潤いのある健全で文化的な生活環境の確保を方針に次の活動を実施しております。

1. 緑と花の愛護普及事業

地区内の通りの植樹マスに自治会と協賛し花植えを実施。また、コミュニティーセンター花壇や大島公園花壇への春と秋の花いっぱい運動の展開を行っています。

2. 環境美化運動

- ・コミュニティーセンター利用者団体と共催し年3回田彦コミュニティーセンターの敷地内の除草作業を行っています。
- ・市が中心となり河川クリーン運動に参加し、河川愛護の精神を高める推進を行っています。
- ・平成18～22年度までEMボカシ普及に取り組みました。



3. 環境講座の開催年1回程度、県や市の出前講座を中心に環境問題や省資源等のテーマで講演会の企画・開催をしています。地域の方が環境に興味を持ち、身近なところから広がる地域のつながりを進めます。

◇ 広報委員会

田彦中学区地域づくりの会が設立され、会の情報発信として平成6年8月に初号「コミュニティ田彦」を発行いたしました。それ以降、年3回の発行し令和6年3月発行で90号となりました。

これまで時には、雨天により運動会の中止や新型コロナウイルス感染拡大により事業が縮小されたり、会活動の発信に苦勞したこともありましたが、広報委員のアイデアにより地域関連の情報を集め、地域に寄り添った情報の提供を行ってまいりました。

平成12年度からA版サイズになり、読みやすくなったのではないのでしょうか。

今後とも時代の変化と地域の皆様のニーズにお応えできるよう紙面づくりに心得たいと思います。

これまでに寄稿いただきました方々に御礼申し上げます。



思い出のアルバム

田彦コミュニティまつり



■ 自治会活動

私たちの生活は、多くの人たちの協力や支え合いにより成り立っています。

自治会は、住み良い地域社会をつくるために、地域住民の共同性をもとに組織された団体で、自治機能を持ち、広域性のある活動を行っています。

活動の主な内容は、情報提供（市報等配付）、防災活動・災害時の支援活動（防災訓練・防災資機材の整備・非常食の備蓄）、環境対策（資源回収の実施・環境美化活動）、防犯対策（防犯灯の設置・防犯パトロール）、地域のふれあい・支えあい活動（地域福祉や高齢者の見守り）等を行っています。

自治会は、日々の暮らしの中で、私たちの生活をより良くするために必要な組織であり、かけがえのない身近な存在です。地域をみんなでより良くするために、自治会の活動に参加し「だれもが暮らしたくなるまち」をつくっていきましょう。

自治会の主な事業概要

事業の内容			事業の内容		
会議	自治会総会	4月	防火・防犯	防犯灯の維持管理	随時
	役員会	毎月		防犯パトロール隊による巡回	月数回
厚生・地域福祉	敬老祝賀会	9月		青色防犯パトロール隊による巡回	月数回
	一人暮らし高齢者等食事会	10月		防災訓練	8月
	一人暮らし高齢者歳末訪問	12月		消火器の維持管理	随時
	移動研修	年1回		市消防団出初式	1月
	シルバーリハビリ体操	毎月	共同募金	日本赤十字社募金協力	5月
	元気アップ体操	毎月		社会福祉協議会募金協力	5月
環境衛生	ゴミ置場管理、再生資源回収立会	月数回		赤い羽根募金協力	10月
	環境美化運動	5、11月		歳末助け合い募金協力	10月
	街かど花いっぱい運動	6月			
	公園除草作業	随時			



■ 田彦東自治会（環境美化，資源回収活動について）

平成6年4月に田彦自治会が2つに分離して田彦東自治会が誕生しました。当時は、高度成長が続くなか次々に宅地化が進みました。当時は、ちびっ子広場が会場となり田彦夏祭りが開催されました。

◎ 街かど花いっぱい活動，環境美化活動

- ・各自治会では、自治会内の公園や通りの樹木マスへの花植え活動を通じ、自治会内の美化活動を行っています。

- ・地域愛を育むことを目的に市内一斉の環境美化運動に会員に参加を呼びかけます。親子や散歩を兼ねた方の参加により、コミュニケーションが生まれ地域の繋がりが感じられます。

- ・地区内の公園を綺麗に保つため、毎年数回公園美化運動の日を設けて、除草や遊具清掃を行っています。公園等の環境美化活動を通じ、出会いが地域の財産となっています。



(花壇整備)

◎ ゴミ集積所・資源回収活動

- ・ゴミ集積所管理も自治会の仕事。

当番を決めて清掃活動を行っています。

- ・資源回収ステーションでの資源集積や分別のお願いも重要な役割となっています。地域の方々の積極的な参加により、回収された資源は、自治会の貴重な財源となります。



■ 西大島自治会（地域福祉活動(一人暮らし高齢者)について）

西大島自治会の誕生は、大島地区の区画整理事業が終了し町名が西大島となり、平成1年に西大島自治会が誕生しました。かつては農業用水池が緑豊かな大島公園に整備され、その後総合福祉センターが建設されました。駅近の立地条件も良く社宅や住宅開発が進みました。その後、二世の方が巣立ち、比較的高齢世帯が増えつつあります。

自治会が取り組む地域福祉事業を市や市社会福祉協議会と連携して推進しています。

具体的には、「ひとり暮らしの高齢者をかこむ食事会」を自治会と関係者の方と連携し、毎年開催しています。

開催内容は、健康体操等でリフレッシュ。



(総合福祉センター大島荘で開催)



(田彦西自治会開催)

地域の皆さんと食事囲んで歓談。

自治会の役員さんや関係との入念な準備を進める中、お互いにコミュニケーションが弾み地域の見守りの力が感じられる。

■ 田彦西自治会（防災活動、共助の推進について）

田彦西自治会は、国道6号線の東西に位置し、早戸川沿いには緑が多く、散歩コースに最適で住民の憩いの場になっています。古くは水戸街道の宿場として各家に屋号が使われ、村を守る吉田神社は、古墳の跡に鎮座しています。

◎自主防災会では、「自分たちの地域は自分たちで守る」という連帯の下、地震、水害等の自然災害による被害を予防し、災害時に日頃の活動成果を迅速かつ効果的に最大限発揮できることを目的に、各組長を中心に防災訓練を、「市総合防災訓練」の日に合わせ実施しています。

市の訓練開始合図（サイレン）により、①自宅での初動活動、②周辺の安全確認、③組員の安否確認の後、避難開始になります。

- ・座学では、防災基礎知識、防災組織確認、非常食紹介。

- ・実践的訓練では、フレキシブルタンクによる給水活動訓練、初期消火訓練、発電機操作訓練、要支援者支援班の安否確認報告(民生等委員が戸別訪問により安否確認)、非常食の試食。毎年、大勢の参加者があり有意義な訓練になっています。



(フレキシブルタンクによる給水活動訓練)

■ 堂端自治会（防犯活動等について）

堂端自治会は、JR常磐線西側の外野と上高場、東石川の一部から構成し堂端自治会が誕生しました。その後、西光地地区の区画整理事業が進みマラソン道路沿いの商業圏や住宅開発が進み若い世代が多い地域となっています。

各自治会では、犯罪のない安全で安心して生活できる潤いのある街づくりの実現のため、地域住民と相互連携を深め「自分たちの街は自分たちで守る」を合い言葉に犯罪や事故などの未然防止に努めることを目的に自主防犯パトロールを実施しています。

◎防犯灯は、夜の安全な街づくりのため、自治会が設置・管理を行っています。

◎自主防犯パトロール隊は、数名で班編成し、毎週自治会内を巡回しています。巡回中に出会った住民や下校途中に小学生児童達と気持ちの良い挨拶を交わすとともに、併せて吸い殻やペットボトルなどのゴミ拾いも行っています。



(堂端自主防犯パトロール隊結成式(H28/7))



(パトロール活動風景)

■ 大島公園西自治会（地域福祉活動(敬老会)について)

大島公園西自治会は、大島公園の西側に位置し、大島公園や総合福祉センター、田彦小学校、中学校と隣接し子育て世帯に抜群の生活環境です。

会員は、家族ぐるみの付き合いや行事の結束力は、十万馬力です。

高齢化社会になり年々対象者が増えている敬老会行事は、各自治会とも年間行事として大きな事業の一つとなっています。

令和5年9月に総合福祉センター大島荘で行われた敬老会行事を紹介します。

今回のコンセプトは、「多世代交流」を掲げ子ども会にも協賛しました。

前日からの飾り付けや当日は朝から関係者総動員によるお迎えの準備。当日は、サロン形式による開宴。コロナの行動制限で3年ぶりの顔合わせに会話が弾みます。手作りポップコーンが大評判。小学生とのトランプゲームやカラオケ。

あっという間の楽しい賑やかな時間が過ぎ「またね」のあいさつでお見送りができました。

高齢化社会が進む中、つながり、助け合い、敬う心等を育てることが地域福祉の原点と思います。

自治会活動写真集



思い出のアルバム

秋季運動会



西暦	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000
年度	平成6年度	平成7年度	平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度
海外	北朝鮮 金日成主席死去	アウン・サン・スー・チー氏自宅軟禁を6年ぶりに解除	・ベルー日本大使館公邸人質事件 ・フランスにおいて狂牛病発生	・ダイアナ妃交通事故死	・米英軍がイラクを大規模攻撃 ・金大中氏が韓国大統領に就任	・トルコと台湾で大地震 ・欧州に新通貨ユーロ誕生	・シドニー五輪女子マラソン高橋尚子 金 ・イチロー選手大リーグ入団
国内	・阪神淡路大震災(7.1.17) ・日本人初女性宇宙飛行士 向井さん宇宙へ	・オウム真理教による地下鉄サリン事件 ・Windows95発売	・たまごっち発売 ・堀江さん太平洋横断成功 ・O157が猛威	・長野冬季オリンピック開催(1998.2.7開幕) ・東京アクアライン開通 ・長野新幹線開業	・和歌山毒入りカレー事件 ・山一証券閉店 ・拓殖銀行破綻	・10月東海村JCO臨界事故 ・北朝鮮工作船が日本領海侵犯	・有珠山と三宅島が噴火 ・そごう、千代田生命などが破綻
総理大臣	羽田 孜/ 村山富市	村山富市	村山富市/ 橋本龍太郎	橋本龍太郎	橋本龍太郎/ 小淵恵三	小淵恵三	小淵恵三/ 森 喜朗
茨城県	つくばエクスプレス起工	第6回世界湖沼会議が霞ヶ浦沿岸地域で開催	第2回世界盲人マラソンかすみがうら大会開催高円宮同妃両殿下ご臨席	県内の人口が300万人を突破(県北で減少・県南で増加)	第7回全国知的障害者スポーツ大会開催	新県庁舎竣工(約800億円・高さ116m)	北関東自動車道(友部JCT～水戸南IC開通)
知事	橋本 昌	橋本 昌	橋本 昌	橋本 昌	橋本 昌	橋本 昌	橋本 昌
ひたちなか市	勝田市、那珂湊市合併、ひたちなか市誕生	11月市民憲章施行	・石巻市と姉妹都市提携 ・米国ハズバーグ教育視察団が訪れ、史跡めぐりや交換授業を実施	・総合運動公園、総合体育館、陸上競技場が完成 ・田彦中学校の部室棟建設が完了	総合体育館で大相撲ひたちなか場所開催(約7000人來場) ・常陸那珂港に待望の第一船が入港	東海村のJCO臨界事故(市内小中学校等教育施設を休校)	・田彦中学校全国吹奏楽部 金賞受賞 ・ロックインジャパン初回開催 ・常陸那珂港一部開港し欧州定期航路が開設
市長	清水 昇	清水 昇	清水 昇	清水 昇	清水 昇	清水 昇	清水 昇
主な出来事	◎5月設立総会 ・第1回秋季大運動会開催 ・第1回コミュニティまつり(1500人來場) ・田彦コミ広報紙1号発行 ・備品整備(宝くじ) ・春季球技大会(大島コミと合同)	・少年の主張大会開催(田彦担当) ・10月ひたちなか市第1回秋季大運動会(フトラクション：県警察音楽隊演奏)	・秋季大運動会フトラクション：田彦小バトクラブ実演 ・第1回ふれあいキャンプ開催(青少年部会) ・放置自転車クリーン運動開始(安全福祉部会)	・屋外用がテーブル・椅子購入	県営田彦団地加入(104世帯)	第1回市民スポーツのつどい総合優勝	・第2回市民スポーツのつどい準優勝 ・田彦地区交通安全宣言および第1回大会 ・田彦コミ広報紙A4判化
	秋季大運動会優勝	堂端	田彦東	田彦東	田彦東	田彦西	田彦東
	秋季大運動会準優勝	西大島	大島公園西	大島公園西	大島公園西	田彦西	堂端

田彦中学区人口							
自治組織	自治会世帯数	2,619	2,627	2,672	2,690	2,806	2,788
	うち田彦東	328	336	346	364	370	383
	うち田彦西	703	697	689	681	672	684
	うち堂 端	555	556	560	569	575	574
	うち西大島	706	711	744	743	739	698
	うち大島公園西	327	327	333	333	346	345
	うち県営田彦団地	未加入	未加入	未加入	未加入	104	104
	前年度伸び率		0.3%	1.7%	0.7%	4.1%	-0.6%

田彦小学校児童数		1,047	1,023	1,019	996	985	995
田彦中学校生徒数		499	494	498	501	493	486

※	茨城県人口	2,949,063	2,955,530	2,968,774	2,981,567	2,993,323	2,998,967	2,985,676
	ひたちなか市人口	146,988	146,750	147,205	148,006	149,621	151,010	151,673
	前年度伸び率		-0.16%	0.31%	0.54%	1.08%	0.92%	0.44%
	市 世 帯	48,761	49,277	49,786	50,599	51,702	52,841	53,476
※	市1世帯当たりの人数	3.0	3.0	3.0	2.9	2.9	2.9	2.8
※2	市成人式(対象者)		2,265	2,115	2,173	2,000	1,991	1,799

※統計ひたちなか資料より

※2教育委員会資料より

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008
平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
・米国で同時多発テロ(9.11) ・米英軍がアフガン攻撃。タリバン政権崩壊	・バリ島で爆弾テロ ・ノーベル賞受賞(小泉氏,田中氏)	・サースの死者が世界で745名 ・フセイン大統領拘束	・スマトラ沖地震発生(M9.1)	・米国ハリケーン(カトリナ)による被害	・フセイン氏死刑 ・北朝鮮が核実験,ミサイルも発射 ・ジャワ島地震,死者5700人	・中国 月探査衛星打ち上げ ・ミャンマーで邦人カメラマン死亡	・リーマン・ショック 円高が進む 1ドル87円台 ・ノーベル賞受賞(益川氏,小林氏,南部氏,下村氏)
・雅子さま,女兒出産 ・全国で狂牛病の検査 ・新宿雑居ビル火災44人死亡	・小泉首相訪朝(金総書記拉致を謝罪)被害者5人帰国 ・W杯サッカー日韓同時開催	・鳥インフルエンザ発生 ・オレオレ詐欺の横行	・紀宮様婚約 ・新潟中越地震発生(10月M6.8)	・第2次小泉内閣 ・鳥インフルエンザ発生	・日本郵政(株)が発足 ・地上デジタル放送が開始 ・日銀ゼロ金利政策(2007/2)	・東京マラソンが初開催 ・参院選で自民,歴史的敗北 ・新潟中越沖地震(7月M6.8)	・後期高齢者医療制度開始 ・東京秋葉原通り魔事件発生7人死亡
森 喜朗/ 小泉純一郎	小泉純一郎	小泉純一郎	小泉純一郎	小泉純一郎	小泉純一郎/ 安倍晋三	安倍晋三/ 福田康夫	福田康夫/ 麻生太郎
鹿島サッカースタジアムがリニューアルオープン	FIFAワールドカップ・茨城総体開催	圏央道つくばJCT～つくば牛久IC区間開通	平成の大合併が進む(合併前88市町村)	・全国植樹祭開催 ・つくばエクスプレス開業	平成の大合併が進む(合併後44市町村となる)	全国健康福祉祭茨城大会ねりんピック茨城2007開催	日立港・常陸那珂港・大洗港を茨城港として統合
橋本 昌	橋本 昌	橋本 昌	橋本 昌	橋本 昌	橋本 昌	橋本 昌	橋本 昌
・第50回勝田全国マラソングストランナーで有森裕子選手,弘山晴美選手出場	・勝田公民館を中央公民館に名称変更 ・完全学校週 5日制が実施	・全小中学校に学校評議員を配置 ・田彦小学校の少人数学級棟増築が完了	・勝田全国マラソン2月11日から1月の最終日曜日に変更 ・4月24・25日に全日本モトクロス選手権シリーズ 第2戦関東大会がひたちなか市で開催	・田彦小教室棟増築完了 ・欧州定期航路開航	・那須塩原市と姉妹都市提携	・コマツ茨城工場稼働	・ひたちなか海浜鉄道誕生 ・市立幼小中学校39施設にAED配置
清水 晃	清水 晃/本間源基	本間源基	本間源基	本間源基	本間源基	本間源基	本間源基
・第3回市民スポーツのつどい参加	第4回市民スポーツのつどい準優勝	・田彦コミ広報紙10周年記念号発行 ・総会資料A 4判化 ・少年の主張大会開催(田彦担当) ・屋外倉庫#1購入	・新潟中越地震被災者募金活動 ・田彦コミ広報紙/田彦の歴史連載開始	田彦コミまつりに初2本組竹アーチモニュメント作成	・第1回地域文化展開催 ・田彦コミまつり3本竹アーチモニュメント作成 ・宝くじ助成金により備品整備(白セト,芝刈機,会議机,椅子,テント他)	・各自治会パトリール隊結成 ・裁判員制度講演会開催	・3月田彦地区防犯パトリール隊結成(青色パト) ・田彦コミ紙A 4判フルカラー化
田彦東	田彦東	田彦東	田彦東	田彦東	田彦東	田彦東	田彦東
資料なし	資料なし	資料なし	田彦西	大島公園西	堂端	田彦西	田彦西

2,809	2,852	2,835	2,853	2,862	2,882	2,914	2,936
397	413	412	419	421	429	443	450
687	669	668	701	746	750	739	723
595	644	644	650	660	670	700	730
679	673	664	645	598	596	592	590
347	349	343	334	333	333	336	339
104	104	104	104	104	104	104	104
0.7%	1.5%	-0.6%	0.6%	0.3%	0.7%	1.1%	0.7%

996	997	1,024	1,026	1,013	1,012	1,016	1,006
489	474	478	448	438	443	472	478

2,991,172	2,992,538	2,992,152	2,991,589	2,975,167	2,971,798	2,970,800	2,968,396
152,142	152,309	152,860	153,250	153,639	154,579	155,184	155,960
0.31%	0.11%	0.36%	0.25%	0.25%	0.61%	0.39%	0.50%
54,252	54,763	55,577	56,148	56,319	57,421	58,420	59,468
2.8	2.8	2.8	2.7	2.7	2.7	2.7	2.6
1,762	1,748	1,780	1,738	1,743	1,765	1,700	1,714

西暦	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	
年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
海外	・オバマ米国大統領就任 ・北京五輪開催	・チリ(サンセホ鉱山)で69日ぶりに地中から救出 ・ノーベル賞受賞(根岸氏,鈴木氏)	北朝鮮 金正日総書記死去	オバマ米大統領再選	IOC/2020年東京オリンピック開催決定	ナイジェリアで女子生徒276人が拉致される	・IS(イスラム国)が邦人人質殺害 ・ノーベル賞受賞(大村,梶田氏) ・米・キューバ国交回復	
国内	・9月鳩山内閣誕生 ・裁判員制度の運用が開始	・東日本大震災(2011.3月M9) 津波,福島原発事故 ・「はやぶさ」帰還	・アナログ放送からデジタル放送切替 ・第1回FIFA女子ワールドカップなでしこJAN優勝(7月)	・アベノミクス3の矢(金融・財政・成長戦略) ・東京スカイツリー開業 ・オスプレイ配備	ブラック企業が流行	・リニア新幹線着工 ・「はやぶさ2」打上 ・御嶽山噴火57人死亡6人不明	・マイナンバー制度がスタート ・川内原発が再稼働 ・辺野古移設国が着工 選挙権年齢18歳に引下げ	
総理大臣	麻生太郎/ 鳩山由紀夫	鳩山由紀夫/ 菅 直人	菅 直人/ 野田佳彦	野田佳彦/ 安倍晋三	安倍晋三	安倍晋三	安倍晋三	
茨城県	技能五輪大会・障害者技能大会を開催	茨城空港が開港(航空自衛隊と民間の共用飛行場)	県内全域で東日本震災の被害に遭う	つくば市などで竜巻発生(5月6日)死者1名全壊76戸竜巻の規模は国内最大級のF3	茨城県の人口2012年末294万4115人,年間で1万11人減少	全国高等学校総合文化祭開催	台風18号の豪雨で鬼怒川が増水常総市内の数箇所破堤	
知事	橋本 昌	橋本 昌	橋本 昌	橋本 昌	橋本 昌	橋本 昌	橋本 昌	
ひたちなか市	・新型インフルエンザのため洋上学習&中学生海外派遣事業中止	・G1タワー施工 ・4月/市自立と協働のまちづくり基本条例施行 ・3月本市も東日本大地震による被害発生 ・震災により学校休校	・学校給食再開 ・国営ひたち海浜公園入園者数98万6311人前年比32.4%減	・小学校14校に防災用井戸整備 ・県内初 外国クルーズ船(セブンスター・マリナー)寄港	・中央公民館を廃止し,生涯学習センターと名称を変更 ・ひたちなか市誕生20周年記念式典開催	・田彦小体育館改築太陽光パネル設置 ・全公民館が地域移管となる。	・市復興横綱土俵入り(4/20) ・ロックイン・ジャパン約2.5万人動員	
市長	本間源基	本間源基	本間源基	本間源基	本間源基	本間源基	本間源基	
主な出来事	田彦中学区 地域づくりの会	・少年の主張大会開催/1,350名参加(田彦担当) ・屋外倉庫#1裏下げ	・まちづくり市民会議勉強会 ・放置自転車クリーン運動終了 ・コミ組織連絡協議会事務局担当 ・堂端自治会第38回花と緑の環境美化コンクール県議会議長賞受賞	3月東日本大震災による田彦公民館避難所開設 5月学校給食再開	12月田彦の歴史26連載終了	4月田彦公民館が地域移管し、田彦コミュニティセンターに改名	・第9回地域文化展開催で終了、コミまつりと芸能発表に引継ぐ ・健全な家庭づくり振興大会(田彦担当)	・地域芸能鑑賞会開催。次年度から芸能発表会へ移行 ・H6年度からの高齢者レクリエーション自治会対抗の名称変更(シニアレクリエーション)(体育部会)
	秋季大運動会優勝	田彦東	雨天中止	田彦東	田彦西	田彦東	田彦東	雨天中止
	秋季大運動会準優勝	田彦西		田彦西	田彦東	田彦西	田彦西	

	田彦中学区人口	15,412	15,297	15,323	15,398	15,594	15,622	15,605
自治組織	自治会世帯数	3,000	3,020	3,018	3,016	2,994	3,048	3,054
	うち田彦東	460	460	460	463	465	469	467
	うち田彦西	705	710	710	709	703	719	709
	うち堂 端	780	800	810	825	826	856	880
	うち西大島	615	610	600	590	580	580	577
	うち大島公園西	336	336	334	325	316	320	322
	うち県営田彦団地	104	104	104	104	104	104	99
	前年度伸び率	2.1%	0.7%	-0.1%	-0.1%	-0.7%	1.8%	0.2%

	田彦小学校児童数	1,018	1,015	1,012	982	938	924	891
	田彦中学校生徒数	481	463	483	481	484	470	480

※	茨城県人口	2,967,404	2,969,770	2,956,854	2,945,824	2,933,381	2,921,184	2,916,976
	ひたちなか市人口	156,651	157,060	157,141	157,153	156,964	156,704	155,689
	前年度伸び率	0.44%	0.26%	0.05%	0.01%	-0.12%	-0.17%	-0.65%
※	市 世 帯	60,284	60,268	60,952	61,580	61,968	62,441	61,104
※	市1世帯当たりの人数	2.6	2.6	2.6	2.6	2.6	2.6	2.6
※2	市成人式(対象者)	1,631	1,631	1,686	1,690	1,670	1,670	1,737

※統計ひたちなか資料より

2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
平成28年度	平成29年度	平成30年度	31年度/R元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
・トランプ米大統領就任 ・英国がEU離脱決定 ・米大統領88年ぶりにキューバ訪問	・北朝鮮 核ミサイル開発加速 ・マレーシア空港で金正男暗殺	・米朝が史上初の首脳会談 ・メルケル独首相引退	・中国武漢市で第1例目の新型コロナウイルス感染者が報告 ・デング熱の感染拡大	3月WHO新型コロナウイルスパンデミック宣言	・バイデン米大統領就任 ・新型コロナウイルスの世界感染者が2億人超 ・日本のコンテナ船スエズ運河で座礁	・英エリザベス女王死亡 ・2月ロシア・ウクライナ攻撃	・WHOパンデミック宣言解除 ・パレスチナ・イスラエル戦争 ・WBC_侍JPN世界一 ・大谷翔平満塁MVP V2史上初 &10年総額7億ドル（約1015億円）超大型契約/ドジャース ・米国インフレ、金利利上げ 円安150
・天皇陛下、退位の意向示唆 ・熊本地震（4月M6.3） ・北海道新幹線が開業 ・オバマ米大統領広島訪問 安倍晋三	仮想通貨への投資がブームとなる 安倍晋三	・北海道胆振東部地震（9月M6.8） ・全国で歴史的な猛暑 熊谷41.1度 ・日産ゴーン会長逮捕 安倍晋三	・消費税が10%引上 ・沖縄首里城火災で焼失 安倍晋三	・新型コロナウイルス緊急事態宣言により行動制限が繰返す ・東京オン・バラ1年延期 安倍晋三/ 菅 義偉	・新型コロナウイルス緊急事態宣言により行動制限が繰返す ・東京オン・バラ無観客開催 菅 義偉/ 岸田文雄	・安倍前総理、奈良市で参院選の街頭演説中に銃撃死亡 ・知床半島で観光船沈没 岸田文雄	・G7広島サミット開催 ・将棋8冠_藤井聡太 ・政治資金不正と増税で内閣支持率最低 ・R6年能登半島地震（R6/1月M7.6） ・羽田JAL機と海保機衝突 ・インボイス開始 ・日銀マイナス金利政策解除 岸田文雄
茨城県北芸術祭開催 橋本 昌	圏央道の県内区間が全通 橋本 昌/大井川和彦	茨城空港IC～鉾田IC開通 大井川和彦	・茨城国体開催 ・台風19号接近_国体パラ大会中止 ・台風15号_信楽園「右近の桜」倒れる 大井川和彦	茨城版 コロナNext 提唱（行動制限） 大井川和彦	・日本製鉄所鹿島の高炉休止 ・信楽園「左近の桜」苗木植樹 大井川和彦	5月20日に茨城空港で発生した重大インシデント（基地所属の車両が滑走路に侵入） 大井川和彦	・茨城版 コロナNext終了 ・G7茨城水戸 内務・安全担当大臣会合開催開催 ・21年度県内総生産14.5兆円（5.7%増）発表 大井川和彦
・西中根田彦線跨線橋開通（JR常磐線を跨ぐ5本目） ・豪華客船「飛鳥II」が常陸那珂港に初寄港（9/10） 本間源基	・ふぁみりこらぼ開設（子育て支援・多世代交流施設） ・豪華客船「飛鳥II」が寄港（9/15） 本間源基	・新市長大谷明初登頂（11/27） 本間源基/大谷 明	・茨城国体開へ花いっぱい運動参加 ・台風19号接近避難所開設 大谷 明	・元ひたちなか市初代清水市長に特別表彰の授与 ・コロナによりロックインジャパン中止 大谷 明	・コロナによりロックインジャパン中止（本市から千葉移転表明） ・成人式中止 大谷 明	・勝田全国マラソン70周年 ・新フェス「第1回 LuckyFes」開催 大谷 明	・ひたち海浜鉄道延伸決定 ・中央図書館建替地決定 ・第2回LuckyFes開催 大谷 明
第1回芸能発表会開催	・3年ぶり秋季大運動会開催 ・宝くじ助成金備品整備（綿あめ機、ポップコーン、テト、丁合機他） ・少年の主張大会（田彦担当） ・屋外倉庫#2購入	・第1回会長杯グラウンド・ゴルフ大会開催 ・秋季運動会大会スローガン設定「半端ない！力で示せ田彦人」	・田彦コミ部屋予約期間拡大対応 ・秋季運動会優勝旗作成（25年記念事業） ・昨年ドラフト1位で巨人軍入団した高橋選手が母校の田彦小学校を訪問	・本会コロナ対策指針#1制定・運用開始 ・総会コロナのため書面表決 ・第27回田彦コミまつり展示のみ開催 ・コミ組織連絡協議会事務局担当	・本会コロナ対策指針#2改定 ・第27回秋季運動会（ポウリング） ・第6回芸能発表会（WP勝田で開催）	・本会コロナ対策指針#3改定 ・総会コロナのため書面表決 ・第28回秋季運動会（ポウリング） ・第7回芸能発表会（WP勝田で開催） ・第1回JR勝田車両センター見学会開催 ・屋外倉庫#3購入	・本会コロナ対策指針運用終了 ・第1回春季がーツ大会開催 ・生涯学習セミナー開催（10講座参加者延べ162名） ・第2回JR勝田車両センター見学会開催 ・認知症の人にやさしい事業所認定取得（田彦コミ） ・R6年能登半島地震_災害募金活動（103,556円） ・第1回自治会対抗スポーツ大会（優勝 田彦西自治会）
雨天中止	田彦東 堂端	田彦東 堂端	田彦東 大島公園西	コロナ中止	田彦東 堂端	田彦東 田彦西	田彦西 田彦東

15,820	16,211	16,316	16,441	16,518	16,445	16,244	16,264
3,130	3,144	3,109	3,095	3,073	3,043	2,994	2,905
475	467	476	479	479	468	467	454
740	750	752	743	746	764	749	735
898	907	916	923	903	913	900	867
583	583	526	526	519	510	497	470
330	333	335	320	322	313	301	302
104	104	104	104	104	75	80	77
2.4%	0.4%	-1.1%	-0.5%	-0.7%	-1.0%	-1.6%	-3.1%

892	878	901	885	880	884	857	852
467	474	429	423	408	413	418	419

2,907,262	2,896,675	2,882,943	2,868,041	2,867,009	2,852,105	2,841,084	2,828,915
155,884	155,970	155,681	155,080	156,581	155,684	154,987	154,389
0.13%	0.06%	-0.19%	-0.39%	0.96%	-0.58%	-0.45%	-0.39%
62,025	62,846	63,584	64,245	66,754	67,198	67,857	
2.6	2.5	2.4	2.4	2.3	2.3	2.3	
1,574	1,626	1,651	1,770	1,819	1,816	1,736	1,596

田彦中学区地域づくりの会 役員変遷

西暦		1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003
年度		平成6年度	平成7年度	平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度
地区委員会	会 長	小林 敬	——	——	——	——	——	——	——	▶ 平野和男	——
	副会長	平野 進	——	——	▶ 大塚 清	——	——	——	——	——	▶
		鯉渕 健	——	——	▶ 柴田勝男	——	——	——	▶ 平野和男	欠	——
	監 事	久保和一	——	——	——	——	▶ 木戸田栄	——	——	——	——
		内山仙一	——	——	——	——	——	——	▶ 渡辺恒美	——	——
	顧 問	欠	——	——	——	——	——	——	——	▶ 小林 敬	——
	事務局長	内藤徳司	——	——	——	——	▶ 大内良一	澤畑信忠	上村セツ	——	——
	広報委員会	本永源吉	松本由美子	——	▶ 勝村継人	——	▶ 天池正夫	——	▶ 内田雅恵	——	▶
	〃 副委員長	松本由美子	村上 隆	——	▶ 柴田芳江	——	▶ 内田道子	——	▶ 富沢玲子	——	▶
	田彦東自治会長	村上好朗	——	——	▶ 柴田勝男	——	——	——	▶ 紺野友成	——	▶
実践部	〃 副会長	本永源吉	本永源吉	——	——	——	——	——	▶ 稲田周三	——	▶
	田彦西自治会長	平野 進	——	——	——	——	——	▶ 平野 肇	——	——	——
	〃 副会長	横山知良	——	——	——	——	▶ 鹿志村信寿	——	▶ 平野正志	——	——
	堂端自治会長	鯉渕 健	——	——	——	——	——	▶ 鈴木 勇	——	▶ 本田元次	——
	〃 副会長	斎藤寅雄	石川重三郎	——	▶ 関 節夫	——	▶ 久米健夫	——	▶ 本田元次	立原光男	——
	西大島自治会長	小林 敬	——	——	▶ 平野和男	——	——	——	——	——	——
	〃 副会長	平野和男	——	——	▶ 鹿志村実	——	——	——	——	——	——
	大島公園西自治会長	大塚 清	——	——	——	——	——	——	——	——	▶
	〃 副会長	斎藤 堅	——	——	——	——	——	——	▶ 菅谷義雄	——	▶
	実践部長	木戸田栄	——	——	——	——	▶ 高木利男	——	——	——	▶
田彦公民館	〃 副部長	高木利男	——	——	——	——	▶ 山口三千男	——	——	——	▶
		佐林昭雄	佐林昭雄	——	▶ 山口三千男	——	▶ 矢口良雄	——	——	——	▶
	体育部会長	木戸田栄	——	——	——	——	▶ 矢口良雄	——	——	——	▶
	〃 副部会長	平野 保	——	——	——	——	▶ 橋本五郎	——	——	——	——
		石田 豊	石田 豊	——	▶ 橋本五郎	——	▶ 茅野春水	——	——	——	——
	安全福祉部会長	高木利男	——	——	——	——	——	——	——	——	▶
	〃 副部会長	上村セツ	——	——	——	——	——	——	▶ 平野一能	——	▶
	文化部会長	佐林昭雄	——	——	▶ 宇野春夫	——	——	——	▶ 平野孝子	——	▶
	〃 副部会長	萩谷勅子	——	▶ 平野孝子	——	——	——	——	▶ 石村幸枝	——	▶
	青少年部会長	紺野友成	——	▶ 高尾久子	——	——	——	——	——	——	▶
センター	〃 副部会長	高尾久子	——	▶ 大橋恒雄	——	——	——	——	——	——	▶
		平野百合子	——	▶ 武井由美子	——	——	▶ 樋之口英詞	——	——	▶ 福有義裕	——
	環境部会長	箱崎正昭	——	▶ 祖伝義文	——	▶ 山口三千男	——	——	——	——	——
	〃 副部会長	福地恵一	平野正志	平野大蔵	——	▶ 吉澤 昇	——	▶ 飯村歳永	——	▶ 立原光男	保科久治
	田彦公民館長	小林博文	清水弘義	——	——	——	——	——	——	▶ 小室誠司	——
	センター長	——	——	——	——	——	——	——	——	——	——
	副センター長	——	——	——	——	——	——	——	——	——	——
	——	——	——	——	——	——	——	——	——	——	——
	——	——	——	——	——	——	——	——	——	——	——
	——	——	——	——	——	——	——	——	——	——	——
	——	——	——	——	——	——	——	——	——	——	——

田彦中学区地域づくりの会 役員変遷

2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
					▶ 稲田周三						▶ 勝村和男	
平野 肇			▶ 本田元次		▶ 勝村和男		▶ 平野 勤				▶ 小林克也	
本田元次			▶ 菅谷義雄						▶ 内田雅恵			
					▶ 平野一能						▶ 熊田文勝	
			▶ 鈴木 勇								▶ 清野建造	
					▶ 平野和男						▶ 稲田周三	
平野規子					▶ 平野洋子				▶ 三代 清			
北島莊太郎			▶ 菊池和平		▶ 駒田 正		▶ 川津彰三		▶ 大谷忠彦			
稲田周三			▶ 菅原宜雄						▶ 大橋恒雄			
小林 保	▶ 菅原宜雄		▶ 大橋恒雄						▶ 中村厚士			
			▶ 平野 勤						▶ 藤咲武夫			
	▶ 平野 勤		▶ 藤咲吉邦			▶ 平野忍三	平野和武		▶ 山田茂機		▶ 宮崎眞明	
									▶ 清野建造		▶ 横山信夫	
大橋巨男	▶ 古賀敏男	横須賀秀夫			▶ 清野建造				▶ 横山信夫		▶ 須藤光夫	
			▶ 勝村和男						▶ 小林克也			
	▶ 勝村和男		▶ 小林克也						▶ 座間秀夫		▶ 宮本能光	
菅谷義雄					▶ 内田雅恵							
内田雅恵					▶ 清水正人		▶ 山岡正義					
山口三千男	▶ 大橋恒雄		▶ 石村幸枝		▶ 福有義裕				▶ 熊田文勝	石村幸枝		
大橋恒雄	▶ 石村幸枝		▶ 平野一能		▶ 石村幸枝				▶ 刈谷秀樹			
石村幸枝	▶ 橋本五郎							▶ 熊田文勝	欠	別井 肇	欠	恩田直人
大畠 修	▶ 橋本五郎							▶ 熊田文勝		▶ 久保田寿久		
	▶ 熊田文勝							▶ 勝村和康		▶ 久保田憲治		
			▶ 安田貫二					▶ 久保田寿久		▶ 宮下晴水		
平野一能					▶ 別井 肇						▶ 恩田直人	
天池正夫	▶ 別井 肇				▶ 天池正夫		▶ 恩田直人				▶ 小野瀬義光	加藤泰弘
石村幸枝												
佐林てる子			▶ 須藤光夫							▶ 佐林てる子		▶ 佐々木敬三
大橋恒雄			▶ 福有義裕						▶ 刈谷秀樹			
福有義裕			▶ 佐々木美代子						▶ 藤本幸子			
佐々木美代子			▶ 小野瀬謙二				▶ 刈谷秀樹		▶ 菊池和彦			
			▶ 吉澤 昇		▶ 北島莊太郎							▶ 松原 昇
嘉島一男			▶ 勝村保夫		▶ 大越輝夫		▶ 沼田 実					▶ 菅原研之
	▶ 小池 勝	安 千代美			▶ 藤咲眞美				◆移管			
									稲田周三			▶ 勝村和男
									上村セツ			

西暦	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
会 長	勝村和男	内田雅恵					
副会長	小林克也	大橋恒雄					
	内田雅恵	藤咲武夫	宮本能光				
監 事	熊田文勝		遠藤洋子				
	清野建造	北島荘太郎			上久保正一		
顧 問	稲田周三	勝村和男					
事務局長	上村セツ	平野一能					
広報委員会	三代 清	大谷忠彦	平田源蔵			小林克也	
〃 副委員長	大谷忠彦	小野 勲	宮崎祐輔		池田 寛		
地 区 委 員 会	田彦東自治会長	大橋恒雄	中村厚士				
	〃 副会長	中村厚士	大部正春		刈谷秀樹		
	田彦西自治会長	藤咲武夫			宮崎眞明		
	〃 副会長	宮崎眞明			森 隆		
	堂端自治会長	須藤光夫	安田貫二				
	〃 副会長	安田貫二	福有義裕				
	西大島自治会長	小林克也	宮本能光				
	〃 副会長	宮本能光	山田謙司				
	大島公園西自治会長	内田雅恵	石村寧敏		樋口 治		
実 践 部	〃 副会長	清水正人	石村寧敏	樋口 治	金子幸雄		
	実践部長	石村幸枝	刈谷秀樹	松原 昇	久保田寿久	横山 司	佐々木敬三 藤本幸子
	〃 副部長	刈谷秀樹	松原 昇	佐々木敬三	横山 司	佐々木敬三	藤本幸子 松原 昇
		恩田直人	佐々木敬三	刈谷秀樹	松原 昇	久保田寿久	横山 司 佐々木敬三
	体育部会長	久保田寿久					
	〃 副部会長	久保田憲治					
		宮下晴水	宮本章子				
	安全福祉部会長	恩田直人	恩田直人	横山 司			
	〃 副部会長	加藤泰弘	横山 司	藤咲昌志	小野瀬義光		
	文化部会長	石村幸枝	佐々木敬三				
	〃 副部会長	佐林てる子	小林達也	渡邊紀昭			
	青少年部会長	福有義裕	刈谷秀樹			藤本幸子	
	〃 副部会長	佐々木美代子	藤本幸子			小野瀬謙二	
		小野瀬謙二				欠	
	環境部会長	松原 昇					
	〃 副部会長	菅原研之					
	田彦公民館長						
	センター長	勝村和男	内田雅恵				
	副センター長	上村セツ	平野一能				



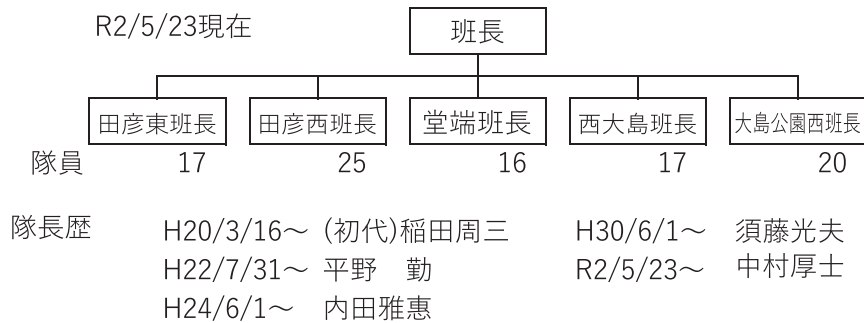
思い出のアルバム

地域文化展・芸能発表会



■ 田彦中学区防犯パトロール隊（青色パトロール）

- ・平成20年3月16日 隊員37名で隊が結成されました
- ・活動の目的は、我々が住む田彦中学区から、防犯・事故及び災害をなくし、安全で安心して生活のできる街づくりを推進するため、青色防犯パトロールカーで地区内の巡回
- ・巡回は、隊員2名以上で乗車
- ・運転者は、ひたちなか警察署が発行する「青色防犯パトロール講習修了者」
- ・組織と隊員数（令和5年度隊員数95名）



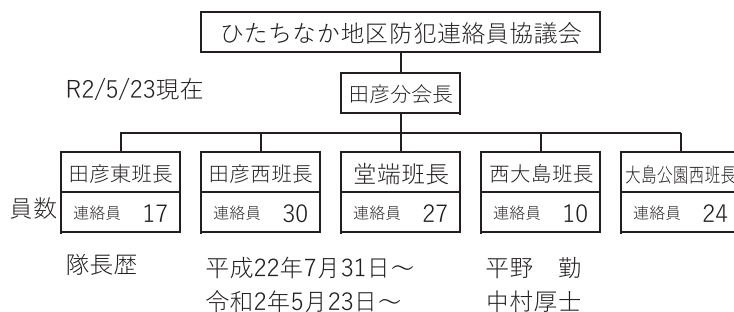
（平成20年3月初代青パト車両は、大橋恒雄隊員車）



（平成20年3月パトロール隊結成会）

■ ひたちなか地区防犯連絡員協議会田彦中学区分会

- ・活動の目的は、犯罪のない、安全で安心して生活できる、潤いのある地域社会の実現を図るなど、地域住民の防犯思想の普及高揚及び善良な風俗環境の維持と浄化並びに青少年育成に寄与する



（令和2年11月田彦分会防犯啓蒙看板設置）

■ 子ども会

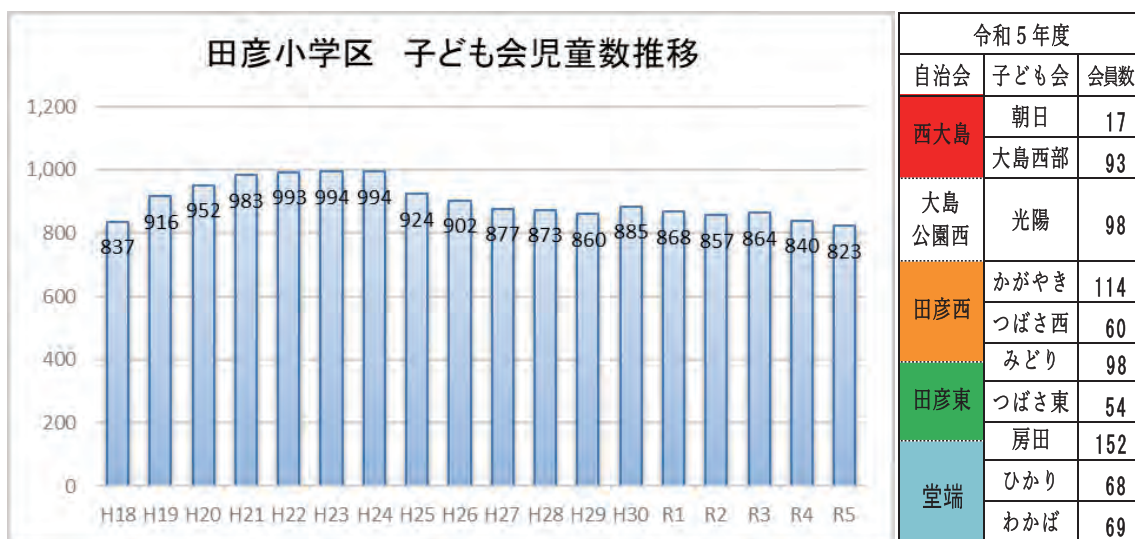
田彦小学区には10の子ども会があり、それぞれ楽しい活動を行っています。

令和6年度からは、朝日子ども会が大島西部子ども会と合併し9の子ども会となります。子ども会ごとに取り組みが多少異なりますが登校班の編成や登校時の立哨活動などを行っています。

主な行事は、新入生歓迎会・野外活動・球技大会・田彦中学区運動会参加・資源回収・6年生を送る会などの活動を行っております。特に田彦中学区運動会の参加は、近所の子ども達との関わりだけでなく、地域の方々とのコミュニケーションがとれる貴重な機会となっています。

集団活動は、子供たちの育成に貴重な体験の場として野外活動があります。例年夏休み頃、子ども会毎に行っています。行方方面の「らぼっぽなめがたファーム」での手作りスイートポテト作りや、福島の震災遺構（旧小学校）の復興の歩みを学んだ子ども会もありました。

長年恒例となっていた市子連キックベース大会は、コロナ後の令和4年度より「リアル野球盤形式」というシンプルなルールに変わり、高学年から低学年まで楽しく参加できるようになりました。今後も地域の方々の見守りのもと、活気ある活動を行なっていきます。



資 料 編

田彦中学区地域づくりの会設立と田彦コミュニティセンター移管までの変遷

年月	田彦公民館/ 田彦コミュニティセンター	田彦中学区地域づくりの会	
昭和50年4月	田彦小学校開校		
平成3年11月	地番測量設計業務委託		
平成4年4月	田彦中学校開校		
平成4年6月	◎田彦公民館整備基本計画 (勝田市教育委員会)		
平成4年8月	進入路整備工事		
平成5年1月	◎田彦地区自治会の組織化検討 (田彦地区および大島地区関係者)		
平成5年4月			①田彦公民館関係職員 主幹配属（1名） ②業務開始（大島コミセン内）
平成5年6月			建築工事着工
平成5年10月		田彦公民館総括主幹および 社会教育指導員1名配属	
平成6年1月	田彦公民館社会教育指導員配属（1名）	田彦中学区 5 自治会形成	
平成6年3月	建設工事竣工		
平成6年4月	田彦公民館供用開始	◎田彦中学区地域づくりの会 設立総会（5月14日）	
平成6年5月			
平成6年11月	勝田市と那珂湊市合併により、ひたちなか市誕生		
平成20年7月	政策課題懇談会開始 (自治基本条例をつくろう) 		
平成22年4月	ひたちなか市自立と協働のまちづくり基本条例施行	市民会議運営開始	
平成25年4月	田彦コミュニティセンターに名称変更 (教育委員会から市に移管)	田彦コミュニティセンターの 管理運営を開始	

市からの要請文書(写)

平成5年1月 日

殿

勝田市長 清水 昇

田彦地区コミュニティ組織等の形成について

厳冬の候 皆様には益々のご清栄のこととお喜び申し上げます。

日頃は市政運営につきまして、深いご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、ご承知のとおり平成6年4月に田彦公民館が開館される予定です。市の方針として、中学校区単位にコミュニティ組織を形成するとの立場から、活動の拠点である公民館の開館に合わせて、組織づくり、体制整備が必要と考えるものであります。

勝田市自治会長協議会が唱えている自治組織の規模再編（適正規模500～1,000世帯）も踏まえ、田彦中学区内のコミュニティ組織の整備及び自治組織の再編について、平成6年3月末日をめどに協議、調整されるよう、関係コミュニティ組織会長及び自治会長に依頼いたしましたので、ご承知おき願います。

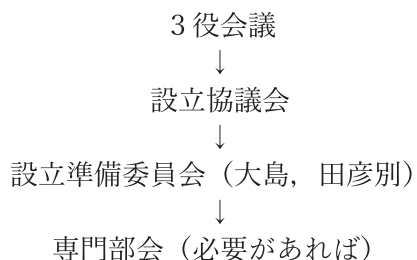
検討資料(写)

田彦地区地域自治会（仮称）の組織化について

標記のことについては、1. 平成5年1月に別紙の通り勝田市長より田彦公民館の開館に合わせ、組織づくり、体制整備の要請があったこと。2. 田彦公民館の建設スケジュール等も別紙のとおり決定したこと。3. 田彦公民館関係職員も主幹が4月に配置され業務を開始、総括主幹と社会教育指導員1名が10月に、残りの社会教育指導員1名が平成6年1月に配置することが決定したこと。

等から田彦地区地域自治会（仮称）の組織化も平成6年4月の設立総会開催に向けて諸準備が必要となった。

1. 組織化の進め方



2. (1) 3 役会議

基本的事項について

地域の境界（常磐線を境に東，西），田彦地区地域自治会の境界
設立協議会，設立準備委員会，専門部会等の設立の是非 他

(2) 設立協議会：地域内住民から広く意見を聴取する会

(3) — 1 設立準備委員会（田彦関係）

- イ. 会則の作成
- ロ. 名称，公募
- ハ. 予算計画 その他

(3) — 2 設立準備委員会（大島関係）

- イ. 共有財産の分割
- ロ. 組織縮小後の体制
- ハ. 組織縮小後の予算
- ニ. 組織縮小後の役員数
- ホ. その他

(4) 専門部会

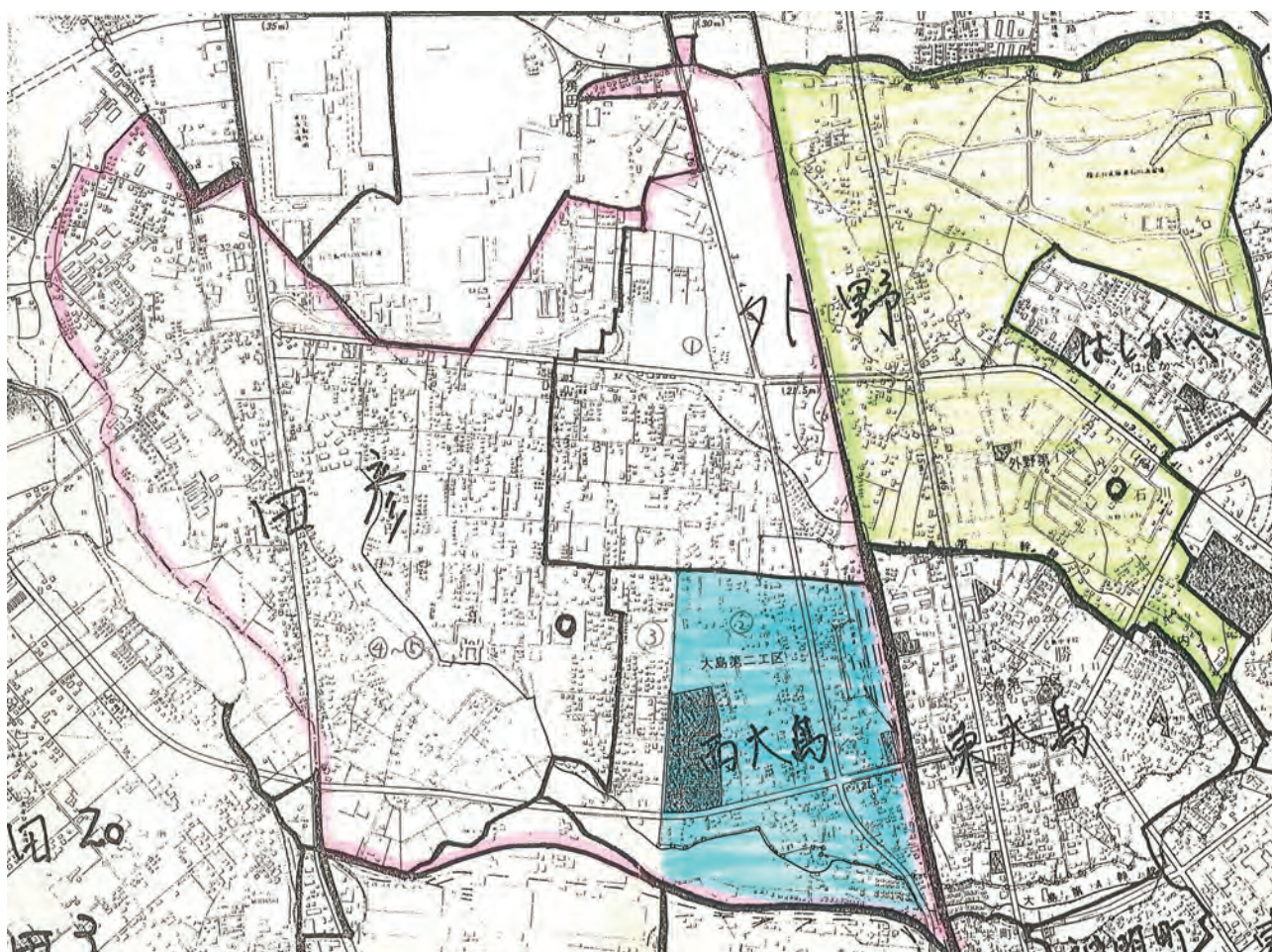
(1)～(3) 以外で設立準備委員会等が必要と認めたものを，専門家に審議，検討を委ねる。

大略，以上の事柄を3 役会議にて検討し，役員会及び総会に提案し承認を得て，設立総会に向けての諸準備作業を行うことになる。

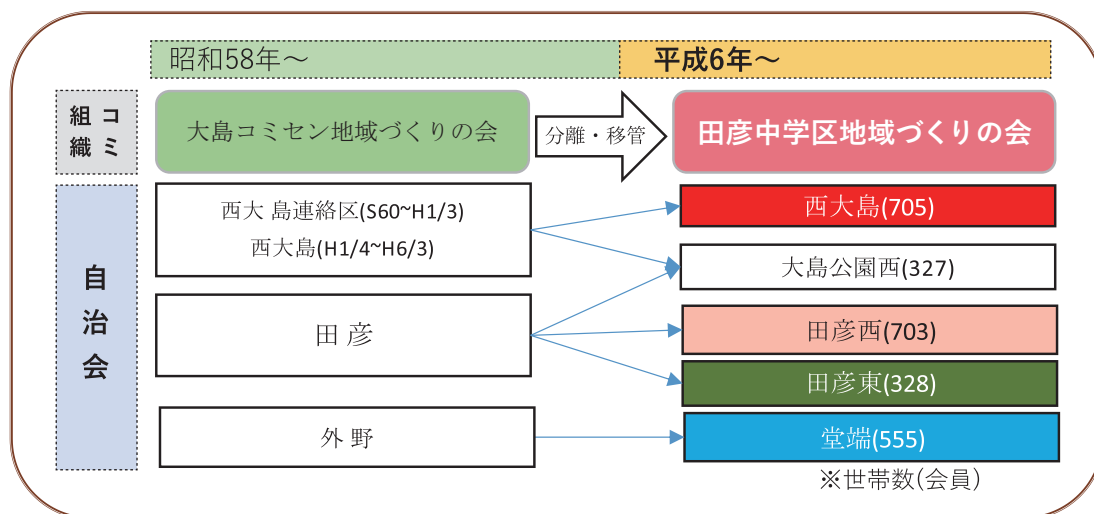
メモ書き 6,210 世帯（大島6：田彦4）

検討資料(写)

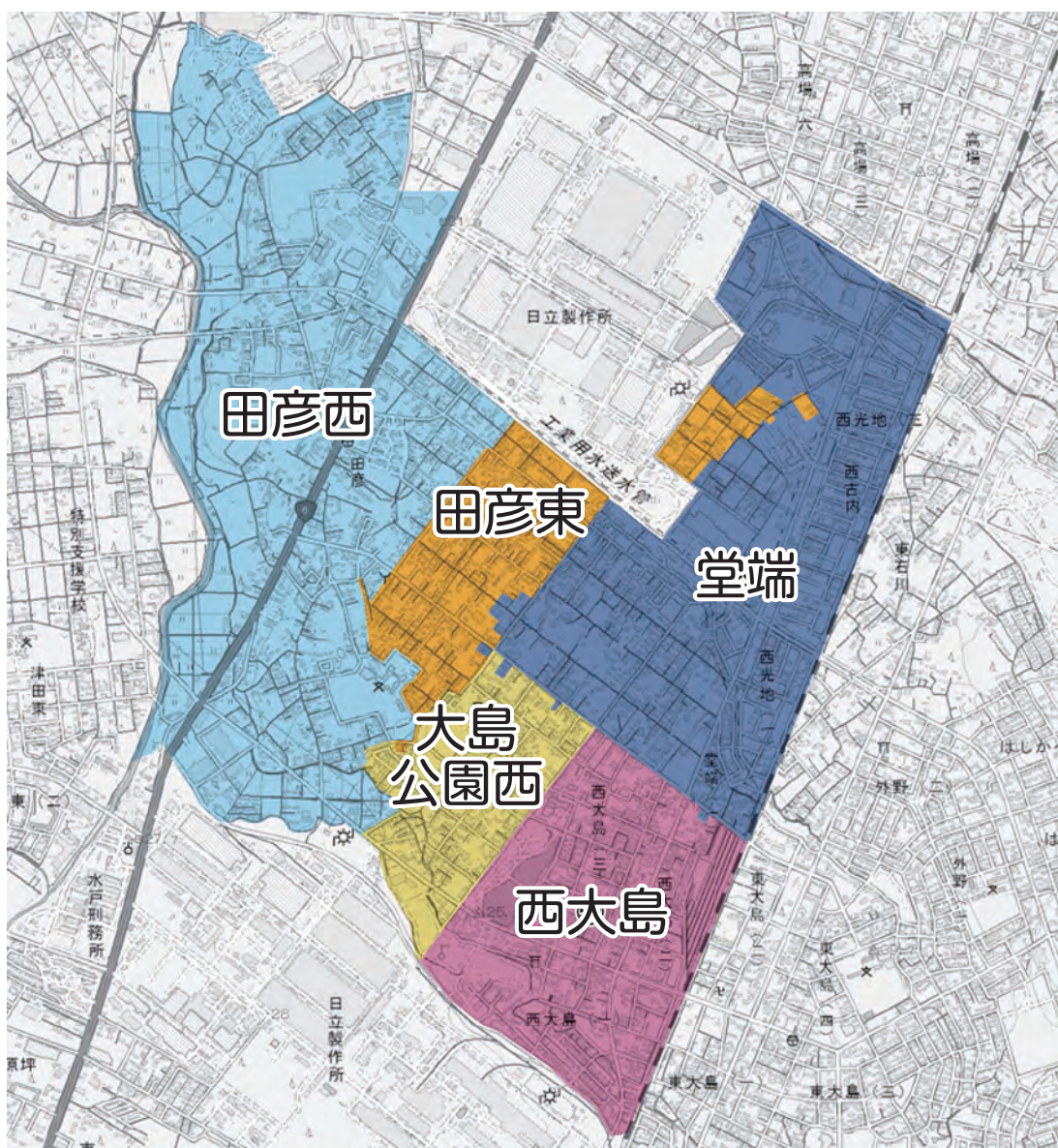
平成5年1月頃 自治会マップ



自治組織と地域コミュニティ組織形成（協議の結果）



平成6年4月 田彦中学区5自治会誕生 現在に至る



この地図は、国土地理院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。

勝田市田彦公民館（仮称） 整備基本構想

平成4年6月

勝田市教育委員会

目 次

1. 整備の趣旨	1
2. 整備の目的	1
3. 整備の基本目標	1
4. 整備の目標年次	1
5. 整備構想	2
6. 整備の年次計画	5
7. 整備の資金計画	5

田彦公民館（仮称）整備基本構想

1 整備の趣旨

勝田市域には、地域住民の学習施設として勝田公民館をはじめとする公民館5館・コミュニティセンター2館の計7施設がある。

公民館建設は、昭和24年社会教育法の制定により公民館の位置づけが確立され、昭和60年の社会教育委員の会議における答申で、適正配置を中学校区単位として以来、生涯学習推進の地域拠点として設置されている。

田彦中学新設に伴い、新たな地区公民館は、情報・高齢・余暇社会に対応できる施設であるとともに、平成4年9月より月1回学校の土曜休校日が実施され、今後土曜休校日の回数が増えていくことが十分予測される。

このような事態に対処するため、従来の公民館設計の考え方に加え、土曜休校日の子どもたちの利用・活動の場としての活用も考慮し、施設・設備、館庭のあり方等、機能的で安全な施設を早急に整備する必要がある。

2 整備の目的

勝田市田彦地区住民の生涯学習及びコミュニティ活動の拠点として、実際生活に即する教育・学術及び文化に関する各種の事業を行い、もって住民の教育の向上、教育の増進に寄与することを目的として田彦公民館（仮称）を整備する。

3 整備の基本目標

- (1) 人間性豊かな創造性のある教育文化都市にふさわしい施設づくりを目指し、地域の生涯学習の拠点として市民学習の一層の向上に資する。
- (2) 情報・高齢・余暇社会に対応できる施設であり学校の土曜休校日の子どもたちの利用・活動の場として位置づける。
- (3) 地域社会の多様化・高度化した学習要求を満たす施設であり21世紀に対応する施設づくりに努める。

4 整備の目標年次

勝田市田彦公民館（仮称）は、平成6年4月1日開館を目標とする。

5 整備構想

(1) 敷地の位置

勝田市西部、那珂町と隣接し、県営田彦団地北側の国道6号線に近接する場所で、人口約13,600人（4,880世帯）を擁する田彦中学校区のほぼ西北部に位置している。

① 敷地地番

勝田市大字田彦950-15（旧番地内）

② 敷地面積

4,000㎡（借地）

(2) 建設基本構想

田彦公民館（仮称）は、施設の管理運営及び市民の利用の面から、運営の合理化、維持管理の省力化等建物の有効利用に配慮して整備する。また、他の公民館との連携を考えるとともに、次の視点から方向づける。

- ① 地域住民のふれあいの場として、展示ギャラリーや市民ホールをロビーに設ける。
- ② 生涯学習及び地域コミュニティの会議及び集会に必要な施設として会議室を設ける。
- ③ 資料の保管およびその利用に必要な施設として図書室更には土曜休校日の子どもたちの利用・活動の場として児童室を設け、両室共に安全対策のため壁面一部をガラス張りで、室内が見渡せる構造とする。
- ④ 家庭教育学級、婦人学級、各種の定期講座等の開設とこれに伴う実習等に必要な施設として実習室・和室を設ける。
- ⑤ スポーツ及びレクリエーションに必要な施設として集会室を設け、可動ステージ・音響・照明・防音可動間仕切り等の装置を備える。
- ⑥ 管理における機械警備の採用のため機械室を設ける。

(3) 建物の規模・構造

- ① 建築床面積は、1, 200 m²を目標とする。
- ② 鉄筋コンクリート造2階建とし、耐震、耐火構造とする。

(4) 施設の構成（面積概算等）

① 施設内容

単位：m²

室 名	面 積	内 容
事務室 1 階	50	地域におけるコミュニティ活動の推移を図り、公民館の健全な運営を行うため、事務室を置き、職員が常駐する。管理上、図書室・児童室・印刷室・ロッカー室を隣接する。
印刷室 1 階	20	地域コミュニティの生涯学習の情報提供に役立てる管理上事務室を通して印刷室に入るものとする。
ロッカー室 1 階	30	荷物の保管の他、更衣室も兼ねる。 事務室に隣接
図書室 1 階	50	地域住民の文化教養の向上を目指し、図書・記録その他必要な資料を収集・整理・保存してその利用に対応する。 事務室に隣接 壁面一部ガラス張り
児童室 1 階	80	学校週5日制の対応更には、子を持つ婦人の公民館利用のために児童室を設ける。 事務室に隣接 壁面一部ガラス張り
集会室	200	各種集会やステージを利用した催し物の場を提供する。 防音可動間仕切りにより3部屋に分室可能にする。 防音可動間仕切り・可動ステージ・音響・照明設備 ドア一部ガラス張り
会議室 1 1 階（予定）	60	地域住民やコミュニティ組織の話し合いの場を提供する。 防音可動間仕切りを使い、大会議室的利用（100 m ² ）も
〃 2	60	可能にし、地域住民の話し合いの場を提供する。
〃 3	40	ドア一部ガラス張り

〃	4	40	夜間使用ルーム	1階（予定）
和室		40	防音可動間仕切り設置・壁面一部ガラス張り面 水屋・炉を兼ね備え、茶道・華道などの利用にも対応する。襖による仕切り。2階（予定） 履物置場 座布団置場	
〃		30		
踏込		10		
押入		10		
実習室		80	料理教室など各種の実習の場を提供する。 料理実習台6台 ガス使用設備 ドア一部ガラス張り	
1階 実習準備室		20		
共用部分		380	便所 男用・女用（ベビーベット含） 1階（予定） 〃 身障者用 1階（予定） 〃 男用・女用 2階（予定） 倉庫 備品の収納 1階（予定） 〃 〃 2階（予定） 湯沸室 電気給水器 1階（予定） 〃 2階（予定） 1階部分 廊下階段等 2階部分 廊下階段等 風除室 機械室等 ロビー 館の玄関としての役割ばかりでなく、市民ホールや 展示用照明・フックを持つギャラリーとして、地域 住民のふれあいの場を提供するために、可能な限り 出来るだけ大きく面積をとる。	

計 1,200 m²（施設内容については、地域住民の意見を尊重しながら建設設計と併せ増減を考慮する。）

☆ 玄関入口と外壁の一部に、身障者用スロープ設置。（非常階段を兼ねる。）又、屋上から2階ベランダに約100 m²の多目的広場を設ける。

② 駐車場

公民館利用の交通手段として予想される自動車の利用に対処するため、約50台以上の駐車場を整備する。

③ 自転車置場

30台

④ 植栽

施設に調和した樹木を植える。

（5）公民館の設備

① 電機設備

受変電設備、火災報知設備、放送設備、電話設備、電灯設備等

② 給排水・衛生設備

給水設備、給湯設備、排水設備、浄化槽設備、消化設備等

③ 空気調和設備

冷熱源設備（冷暖房装置は、天井設置でなくサイドを検討）、空気調和設備、換気設備等

（６）周辺環境の整備

公民館に関連する周辺環境整備については，進入市道の拡張，排水施設整備更に，交通安全施設の設備をはかる。

６ 整備の年次計画

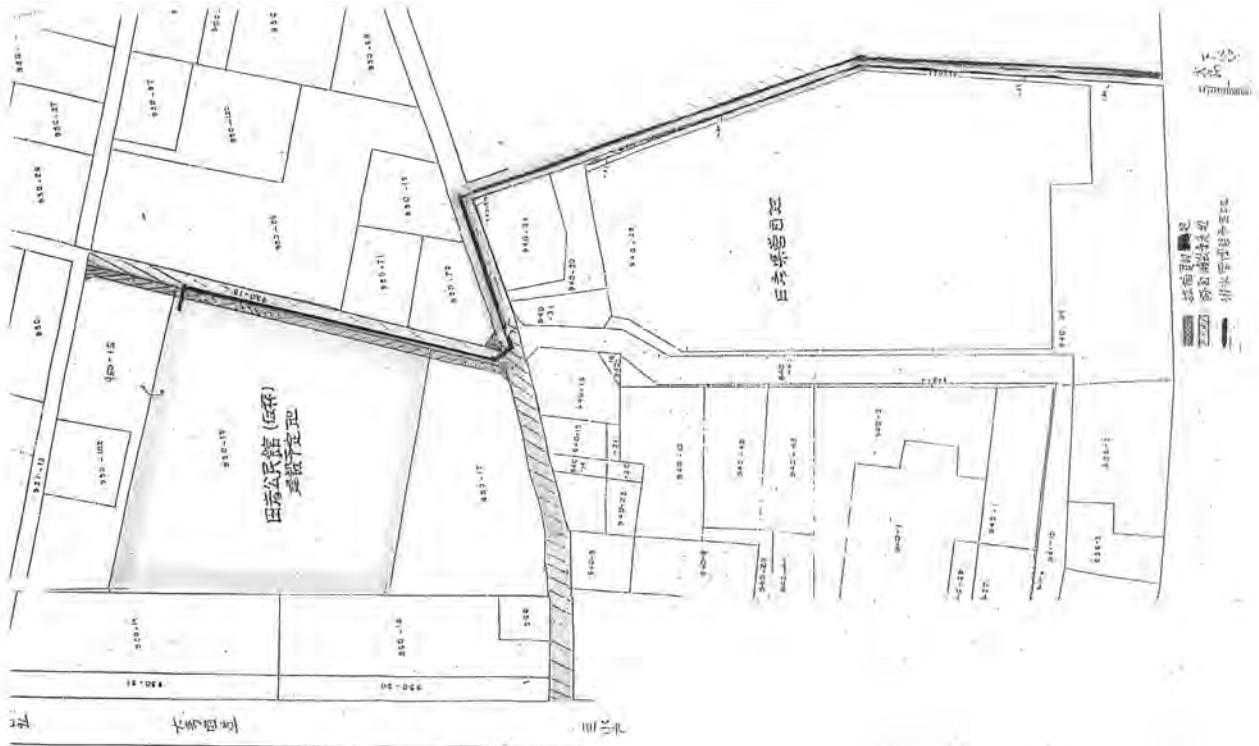
- | | |
|-----------|-----------------|
| （１）基本構想策定 | 平成４年６月 |
| （２）建設設計委託 | 平成４年１０月 |
| （３）建設工事施行 | 平成５年４月～平成６年３月まで |
| （４）開館 | 平成６年４月１日 |

７ 整備の資金計画

整備資金の確保構想

田彦公民館の建設事業費は，概ね５億９百万円を予定し，その財源は特定財源として電源立地促進対策交付金の他に，地方債及び一般財源を充てる。

位置図



平成4年9月5日

関係各位

勝 田 市 教 育 委 員 会
教 育 長 村 田 實

田彦公民館（仮称）建設に伴う説明会の開催について

初秋の候、日頃皆様方には、教育行政につきまして多大なるご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、平成5年度に田彦公民館（仮称）の建設を計画しているところでありますがこの度、公民館建設設計に着手する運びになりました。

つきましては、下記のとおり説明会を開催いたしますので、お忙しいところ恐縮に存じますがご出席下さいますようにご案内申し上げます。

記

- 1 日 時 平成4年9月10日（木）午後7時から9時まで
- 2 場 所 田彦中学校 本校舎1階 会議室
- 3 担 当 勝田市教育委員会 社会教育課 社会教育係
電話 73-0111（内線）431

役 職	氏 名	役 職	氏 名
市会議員	平野 尚	歴史教室	井関 正寿
田彦自治会長	平野 勝美	つくし会	山本 トシイ
第1班長	藤咲 実	革ゆりの会	笠井 ミエ子
第2班長	柴山 善成	古典を学ぶ会	萩谷 勅子
第3班長	横山 知良	安全・福祉部副会長	鹿志村 実
第4班長	根本 満男	〃	高木 利男
第5班長	村上 好郎	〃	満下 和幸
第6班長	平野 千里	母の会	水野 いずみ
第7班長	平野 進	第16分団	藤咲 隆
第8班長	平野 一幸	民営委員	七字 博子
第9班長	二川 松男	青少年副部会長	倉内 あい子
第10班長	平野 忠一	〃	白石 悦子
田彦団地自治会長	広原 正文	〃	四元 孝子
〃 副会長	河野 義久	田彦小PTA会長	小室 俊男
地域づくりの会会長	小林 敬	田彦中PTA会長	樋之口 英嗣
西大島自治副会長	平野 和男	PTA青少年相談員	川崎 信一
体育部会長	小林 節	〃	藤咲 昌志
広報副委員長	松本 由美子	環境部会副会長	渡辺 恒美
地域づくりの会監事	酒井 隆	〃	内藤 徳司
体育部会常任理事	平野 保	安全福祉部会	富岡 栄美
体育会部理事	二瓶 利男	外野自治会長	鴨志田 信三
〃	矢口 良雄	西2班長	村山 太郎
〃	二川 進	西3班長	野口 勉
〃	小藺井 すみ子	西4班長	磯貝 英夫
〃	木戸田 栄	房田班長	平山 正道
〃	館野 久夫	西大島西1班長	小林 克也
〃	横山 真暉枝	西大島塙2班長	眞田 輝辰
文化部会理事	斎藤 堅	新地班長	横山 忠男
〃	川辺 義雄	市営西大島AP班長	深作 修市
〃	窪田 秀夫	光陽2班長	東海林 昭
〃	佐々木 ヨネ子	光陽3班長	鈴木 泰治
茶道・山路	富沢 玲子	大島団地班長	橋本 信五
外野芸能会	立原 豊三	電々社宅班長	小林 和行
樂謡会	小倉 光雄	県営住宅班長	卜部 幸雄
詩吟舞踏会	鈴木 セツ子	建設地地主	高橋 政一

田彦中学区地域づくりの会 設 立 総 会

■ 期 日 平成6年5月14日（土）
午前10時10分～
■ 会 場 田彦公民館（集会室）

ご あ い さ つ

勝田市長 清 水 昇

本日「田彦中学区地域づくりの会」設立総会が、かくも盛大に開催されますことを心からお慶び申し上げますとともに、本会の設立の際し、大変なご努力をなされました準備会の皆様に対し、深甚なる敬意を表するものであります。

また、日頃から市政全般にわたり深いご理解とご協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

ご承知のように、私たちをとりまく社会環境は、高度な情報化社会へと進展しており、市民の価値観も多様化するなかで、健康で心の豊かな生きがいのある生活を求めています。こうした中で、この度、地域の方々が豊かで心のふれあう住みよい地域づくりの会を誕生させ、将来に向かって地域活動を推進させることは、誠に意味深いことであると存じます。

この度、開館致しました「田彦公民館」は、市内中学区単位に配置されております 8 番目の公民館として誕生し、「集まる、学ぶ、つなぐ」という機能を十分に発揮できる施設であり、生涯学習やコミュニティ活動の拠点として利用できるものと存じます。

どうか「田彦中学区地域づくりの会」の皆様におかれましては、本日の設立総会をスタートとして、田彦中学区のより豊かなまちづくりにご精進くださるようお願い申し上げますとともに、本会の益々のご発展を心からご祈念申し上げます。

ご あ い さ つ

田彦中学区地域づくりの会準備委員会
委員長 小林 敬

田彦中学区地域づくりの会の設立総会にあたり、設立準備委員会を代表して、一言ごあいさつ申し上げます。

本日は、ご多忙の中、市長さんを初め、来賓各位の方々、並びに関係団体の代表者多数のご来席を戴き、ここに盛大に設立総会が開催できますことを心からお礼申し上げます。

この度、新設「田彦公民館」と、新生「田彦中学区地域づくりの会」が誕生し、会員2,550世帯は、市内コミュニティの中核として、設立11年余の歴史を誇る大島コミセン地区地域づくりの会より分離、独立しその第1歩を踏み出すことになりました。それぞれの活動の場は離れても、地域づくりの目的は変わりません。会員各位の心のふれあいを深め住みよい地域づくり実現のため、共に手を携えてより大きな活動の輪を広げて参りたいと思います。

思い起こしますと、昭和58年3月、会員4,800世帯をもって、大島中学区地域づくりの会を発足させ、文化、教養、娯楽、スポーツ等、多彩な行事と生活環境の改善を通じてコミュニティづくりは、他地域の方々より高く評価されて参りました。

人間関係の希薄さが問われる昨今、会員各位の多大なご協力を得まして、わたし達の住んでいるこの地域が、より豊かさが実感できる街づくりとして、21世紀に向けて共に進めて行きたいものです。

これからは、公民館を拠点として幅広い生涯学習の場として、大いに利用し生き甲斐、趣味、健康づくりなど会員各位の創意工夫により、相互の親睦を深めよりよい地域づくりのためご協力をお願い申し上げます。

最後になりましたが、本会発足の今日まで市当局のご指導と夜遅くまで真剣にご協議戴きました各関係団体の代表者、準備委員会のみなさま方に厚くお礼申しあげます。今後、本会発展のため、皆様方の一層のご支援とご協力をお願い申し上げ、わたくしのあいさつと致します。

勝 田 市 の 一 般 的 状 況

1. おいたち

私たちの郷土勝田市に人が住み、生活を営み始めたのは、新石器時代といわれ、今から1万5000年から2万年前といわれています。

郷土勝田市域は、茨城県地方における農耕文化の成立とその展開の過程を最もよく観察できる埋蔵遺跡が数多く発見され、特に先土器時代から奈良、平安の各時期に及んでいるが、おそらく県内有数の埋蔵遺跡の宝庫であると思われます。

縄文時代には、三反田の蜆塚貝塚、弥生時代では、東日本最大級の大集落の東中根大和田遺跡、古墳時代に入ると馬渡の埴輪政策遺跡、虎塚古墳、奈良時代の十五郎穴横穴墓と、勝田市の歴史を語る遺跡が数多く残っており、教育、文化の研究都市と高く評価されています。

この永い歴史の足跡を経て、昭和29年3月、馬渡村（一部は那珂湊市への合併）、同年11月に理想的な田園都市をめざして、佐野村が勝田町に合併し、11月1日に市制施行して、人口約36,000人の勝田市が誕生したのです。

2. 地理的状況

私たちの市は、茨城県の中央部から、やや北東部に位置し、市域は、東西11.5km、南北12.8kmのほぼ菱形で面積は、74.34km²あります。

東は、常陸那珂地区を経て那珂湊市へ約1.4kmの海岸線によって太平洋に接し、西は、那珂町に続き、南は那珂川を隔て水戸市に、北は、東海村さらに久慈川を経て日立市と接しています。

市の大部分は、標高30m前後の起伏の少ない平坦な台地で、畑、水田、山林とその他で、工場及び商店街、住宅群が散在しており、市の中央を南北に走る常磐線勝田駅があり、西側に平行して走る国道6号線、海岸寄りに国道245号線が交通の枢軸をなしています。

東京までは、直線距離約100km、勝田駅から特急電車で約1時間30分、更に那珂湊線で東へ那珂湊、阿字ヶ浦に通じています。

道路も、6号国道バイパス、常磐自動車道などの高速道路の整備により、交通や輸送面の能率化により、勝田市をベッドタウンとして、その行動範囲も拡大し、魅力ある産業文化都市を創造し、広域都市圏においても中核的な役割を果たすことを目標としています。

3. 社会的状況

私たちの市は、昭和35年に県と市の一部事務組合による工業団地の造成に着手、工業都市を基軸とした都市づくりがスタートしました。

昭和36年首都圏水戸勝田市開発の指定を受け、昭和45年には首都圏水戸・日立市開

発区域として拡大指定を受け都市開発に取り組んできました。さらに、昭和48年には、市の発展とかかわりの深い旧水戸対地射爆場が米軍から日本政府に返還され、その跡地利用として、2市1村による常陸海浜広域斎場の建設（昭和60年）、勝田市民球場の完成（平成2年）、国営ひたち海浜公園の一部オープン（平成3年度）等、市民の生活改善と体育・文化の向上に寄与しています。

市の発展はめざましく、わずか3万6,000人に満たない田園都市として発足した勝田市が、昭和58年末には10万都市として、都市の近代化へ進み、昭和59年には、市制30周年を迎え、平成5年12月現在の人口は112,860人20万都市への夢と、現在、那珂湊市との合併問題が現実化し、活力ある「海をひらく緑豊かな産業文化都市」をめざし、新しい21世紀の都市づくりとして理想的な郷土建設をめざしています。

都市像を具現化するため、勝田市の都市づくりを次の5つの柱で推進されています。

1. 豊かな市民社会を実現するための都市基盤づくり
2. 緑豊かな自然と魅力ある住みよい生活環境づくり
3. 人間性豊かで創造性のある教育文化の高揚
4. 健康で生きがいのある心のこもった福祉の充実
5. 活力のあるたくましい産業の振興

田 彦 中 学 区 の 状 況

田彦中学区は、市域の西部に位置し、平坦な洪積台地にあります。

常磐線を大島中学区との境とし、南は西大島地区より、北は、房田地区までの南北約3.3キロメートル、東は常磐線まで、西は6号国道を超えた寄居地区までの約3キロメートルが学区となっています。

田彦中学区は、自治区として、田彦東、田彦西、西大島、大島公園西、堂端地区の5つに分かれ、田彦小学校と田彦中学校があります。通学距離が2キロメートル未満の生徒がほとんどで、全生徒が徒歩通学となっています。

学区の北部には、日立製作所の工場が位置しており、それに関連する中小企業の工場も多く、比較的静かな田園工業地域になっています。

区内には、区画整理により整備され、市街化地域のため住宅の建設が多く急速に人口が増加しています。

考古学的にみて、田彦地区内にも遺跡は多く、西原遺跡等の縄文時代早期のもの、弥生時代後期の遺跡の外、田彦古墳群、外野開拓古墳群等がありましたが、その殆どが宅地化により姿を消しています。

また、田彦地区には、中世地頭の館跡や寺院跡等があり、国道6号線ぞいには一里塚跡があり、その歴史を知る手がかりとして貴重な資料となっています。

明治維新を迎え、近代化の波が押し寄せ、相次ぐ政治改革が行われる中で明治22年の市制町村制の施行に伴い大島中学区は、勝田村、佐野村、前渡村に一部がそれぞれ属しておりました。

昭和15年勝田町が誕生し、同29年3月に前渡の一部を、そして同年1月に佐野村を合併し、勝田市として現在に至っております。

小学校は、一部の人たちが佐野小学校、勝倉小学校へ通学していましたが大半の人たちは、遠い中根小学校へ通学していました。昭和50年4月に田彦小学校が創立、「心身共にたくましく、知性と判断力に富み、進んで助けあう調和のとれた人間性豊かな児童の育成」を目標に、全児童と教師が一体となった教育活動を進めています。

中学校は、昭和22年新教育制度のもとに新制中学校が開校されました。翌23年旧市役所前に勝田中学校が建設され、昭和37年勝田中学校から分離し大島中学校が設立されました。

大島中学区に住宅用団地、一般家屋、工場等の増加に伴い、ベットタウンとして人口の増加をたどり、生徒の急増対策として平成4年に大島中より分離し、常磐線を境に西大島、田彦、外野地区にモダンな田彦中学校が新設されました。現在、生徒数約530名、新しい時代に向けて「知、徳、体、の調和のとれた人間性豊かな生徒の育成」をめざし、名実ともにすぐれた教育活動が実践されており、生氣のある学校づくりに全校あげて努力されています。

コ ミ ュ ニ テ ィ 組 織 活 動 の 状 況

昭和57年11月、勝田市の中央部に大島コミュニティセンターが開館し同時に、大島中学区の自治組織が中心となり、現在の「大島中学区地域づくりの会」が誕生しました。この地域づくりの会は、年間を通じて数多くの多彩な事業活動を行っており、特に秋に実施される大運動会やコミセンまつりなどは、すばらしいものがあり、地域の人々とのふれあいに大きな貢献をもたらしており、これらの企画には、会員の並々ならぬ努力が伺われるものです。また、市内の中心部に位置する大島コミュニティセンターの利用頻度についても、極めて高いものがあり、地域住民及び地域づくりの会はもとより、市内全域からの利用も頻繁に行われています。

こうした状況の中、平成4年に田彦中学校が開校されたことにより、田彦中学区においても公民館を整備することになり、平成6年4月に「田彦公民館」が新設されました。これに伴い、現在の大島コミセン地区地域づくりの会も常磐線を境に東西に分割し、新たなコミュニティ組織を形成することとなり、大島コミセン地区地域づくりの会及び田彦中学区の自治会の方々が中心となり、「田彦中学区地域づくりの会（仮称）設立準備委員会」を発足し、30数回に及ぶ検討会議を経て、地域づくりの会の設立に向けて準備を行ってきました。

基本的には、数多くの素晴らしい実績を残してきた大島コミセン地区地域づくりの会の内容を格子として策定し、平成6年5月の設立総会に臨むことになりました。

「田彦中学区地域づくりの会（仮称）」は、設立総会の承認を経て、新たな船出をしていくものであり、地域の皆さんの温かい支援により、大きく育てていかなければなりません。より多くの地域の皆さんの参加と協力を戴き明るく住みよい地域づくりに一層努力したいものです。

来 賓 者 の 紹 介（敬称略）

市 助	長 役	清 水	昇
市 議 会 議 長		岩 間	靖 彦
市 議 会 議 員		小野瀬	徳 男
市教育委員会委員長		平 野	尚
市教育委員会委員		富 岡	剛
〃		原	悟
〃		大河内	禮 子
市 教 育 長		西 野	虎之介
市社会教育委員会の議長		川 又	正 義
大島コミセン地区地域づくりの会		山 本	一 郎
一中地区地域のふれあいを広める会会長		大 山	清
二中学区地域の輪をつくる会会長		三 村	道 行
前渡を明るく住みよくする会会長		寺 門	文 男
佐野の輪を推進する会会長		永 井	喜 芳
市 総 務 部 長		大 塚	勇
勝田市立田彦小学校校長		安 島	明
勝田市立田彦中学校校長		照 沼	義 夫
		吉 田	敬 喜

田彦中学区地域づくりの会の経過について

回	開催日	主 な 協 議 内 容
1	H5 年 1 月	田彦公民館の開館に合わせ、市長より田彦地区地域づくりの会組織づくり・体制整備の要請があった田彦公民館の建設スケジュールの決定。
2	4 月 1 日	田彦公民館、関係職員（主幹）の配置、業務開始。
3	7 月 15 日	公民館の組織形態の内部的検討、設立準備委員会規約作成の検討。
4	7 月 20 日	田彦地区地域自治会の分離問題について役員会で基本的な考えを話し合う。準備委員会の設置について。
5	7 月 24 日	田彦、大島地区境界問題（区割りについて）。
6	8 月 20 日	田彦中学区地域の皆様へ（資料配布）。
7	10 月 1 日	田彦公民館(仮称)、総括主幹、社会教育指導員の配置。
8	10 月 1 日	役員会、田彦公民館建設の進捗状況について、準備委員会の設置と今後の地域づくりのすすめ方について確認する。
9	10 月 15 日	田彦地区委員（準備委員）のメンバーを広範囲に渡り多くの方々を選出する。5 地区の地域づくりの会会則を集め参考資料とする。
10	10 月 17 日	11 月には、組織づくりのため各種準備委員会の設立着手に努める。
11	11 月 1 日	設立準備委員会の構成について、準備委員の推薦。小委員会の設置（第 1、第 2、第 3 小委員会）。
12	11 月 14 日	第 1 回予備準備委員会を開催。準備委員の選出。
13	11 月 22 日	第 2 回予備準備委員会を開催。委嘱状の発送。
14	12 月 5 日	第 3 回予備準備委員会を開催。設立準備委員会の進め方、規約案の検討、小委員会の編成案、委嘱状の発送。
15	12 月 19 日	第 1 回準備委員会、準備委員会設置の審議、事務局の設置と書記の選出、3 小委員会の編成。準備委員会の正副委員長の選出（全対会）、小委員会の正副委員長の選出。
16	12 月 28 日	設立準備委員会代表者会、各委員会推進状況と連絡調整、年間会費の増額については自治会長会で検討。
17	平成 6 年 1 月 7 日	実践部会の組織、会則について、現行の大島コミセン地域づくりの会を参考にし審議策定する。実践部の会則の策定は、5 部会にわかれて審議する。
18	1 月 14 日	第 1 小委員会（1 回）、会名は「田彦地区地域づくりの会」と策定。会則については現行の大島コミセン地区地域づくりの会をベースに審議し検討を加える。
19	1 月 24 日	第 2 小委員会。事業計画について、運動会を本会事業とし、コミュニティ祭りと同様に考える。小規模でもよいので実行委員会で運営をしてほしい。予算については、次回検討とする。
20	1 月 29 日	第 3 小委員会。実践部会会則、予算の集約審議。各委員会の検討案を準備委員会全体会に提案する。原案作成にあたっては、大島コミセン地区地域づくりの会会則と予算をベースとした。
21	2 月 7 日	第 1 小委員会。会名、会則、会費等の検討確認と策定。別表 1、2、3、表の策定。役員選出の方法（第 5 条）に、第 6 項、7 項、と追加する。役員の職務については、第 8 条に 9 項、10 項、11 項を追加。
22	2 月 18 日	第 2 小委員会。事業計画（本会関係）運動会を本会事業として、運動会実行委員会を設置する。予算額については、検討すべき項として、寄付金、基金、備品費、組織運営費、コミュニティ祭り、運動会等。
23	2 月 24 日	準備委員会全体会打合せ、全体会の進め方について、協議。会則については、追加、削除された条項の確認。予算については、第 2 小委員会の審議の通り提案する。

24	2月26日	各委員会の審議経過報告。 会則について、第2条の田彦地区に「田彦中学」を入れて、構成する住民をはっきりさせる。 会費の値上げについて、理由がはっきりしないので、時期尚早である。尚、今後自治会長会で検討する。 設立総会準備委員会の選出について。 各小委員会から3名と準備委員長、副準備委員長を加え11名、それに事務局2名。合計13名とする。
25	3月8日	第1回設立総会準備会。 全体会（2月26日）において協議不十分な事項について、確認をとる。会名について継続審議、第2条（構成）について、住民構成に問題あり再検討。 設立総会について、平成6年5月7日（土）とし、今後、総会へ向けて準備する。 オープンセレモニーを5月7日（行政側）。
26	3月22日	第2回設立総会準備会。 地域づくりの会名の確認について。 「田彦中学区地域づくりの会」と策定する。 予算（案）について、修正案を作成する。準備日程の変更を説明する。
27	4月5日	第3回設立総会準備会。 平成6年度歳入、歳出予算修正案の審議案決定。 総会に向けての諸準備事項の検討。 ・ 総会当日の日程。来賓者のリストアップ。 ・ 総会資料の内容の検討。 実践部組織づくりについての検討。
28	4月19日	第4回設立総会準備会。 実践部の組織づくりについて、再確認。（委員会会長が各部会2名報告）。 1. 期日. . . . 4月30日（土）1時30分。 2. 実践部員全体会（協議説明）。 3. 実践部各部会（正副部会長、広報委員1名の選出）。 4. 実践部運営委員会（正副部長）。 5. 広報委員会の委員選出。自治会各1名、実践部各1名。
29	4月30日	実践部会の概要説明。（全体会） 1. 実践部会の組織、構成団体、活動内容について。 2. 各部会別の顔合わせ。（部会別） ・ 部会別に簡単な顔合わせを実施。自己紹介。 ・ 世話人の選出。選出後事務局に提出。 今後の予定 ・ 各部会別の会議開催予定6月。 （役員、年間事業実施計画、予算、各部会則検討）
30	5月2日	第5回設立総会準備会。 総会にむけての諸準備事項について。 招待者の予定数確認。 準備日程の確認、総会案内状の発送日。4月28日。 総会進行時間と関係者の確認。 資料印刷所回し、5月6日とし、確認は5月4日まで。 受付名簿作成。（来賓、一般） 総会準備会を5月10日とし最終準備とする。 総合司会者との打合せ。5月11日。
31	5月10日	最終打合せ。各係毎に打ち合わせる。 準備事項を再確認する。5月13日。午後2時準備始め。 総会当日の集合、役割、を確認する。

議案第2号 平成6年度 事業計画（案）

1. 運営方針

住民の信頼感にあふれた快適な生活環境をめざして、ひとりひとりが創意工夫し、自治の精神に基づいてより潤いのある地域社会を築き上げることに努める。

2. 事業計画（本会関係）

区 分	要 項
総 会	平成6年5月14日総会開催
役 員 会	年7回開催予定
実践部運営委員会	年5回開催予定
広報委員会	年3回発行、年間12回編集委員会開催
コミュニティまつり	コミュニティまつり実行委員会開催
研 修 会	先進地視察、市コミュニティ連絡協議会研修会参加
運 動 会	秋季大運動会実行委員会

3. 助成事業（各部会事業）

	部会名	事 業 予 定
部	体 育	球技大会 高齢者レクリエーション大会 実技研修会（1） 秋季大運動会 実技研修会（2） 研修視察 コミュニティまつり参加
	文 化	市民憲章文化部会研修会 文化教室の開催 見学会（県内） 構成団体研修会 コミュニティまつり参加
	安 全 福 祉	歩く会 部会研修視察 講習会、講演会 放置自転車クリーン作戦 掲示板設置（地域の危険箇所パトロール及び巡回） 危険箇所パトロール（随時） コミュニティまつり参加
	青 少 年	少年の主張大会協力 青少年非行防止社会を明るくする運動に協力 青少年を取り巻く環境調査パトロール 青少年健全育成指導研修会協力 市民憲章青少年部会研修会参加 健全な家庭づくり振興大会協力 コミュニティまつり参加 青少年育成指導者講習会 その他必要とする事業（随時）
	環 境	地域清掃、空き缶等回収 地域さつき展開催 ゴミ集積所等のパトロール 市グリーンベルトつつじ剪定、清掃 研修視察 市菊花展参加協力 清掃、美化の標語等掲示 河川クリーン作戦 コミュニティまつり参加
会		

議案第3号

平成6年度田彦中学区地域づくりの会歳入歳出予算書（案）

歳入の部

項 目	予 算 額	説 明
1. 会 費	765,000 円	2,550 世帯×300 円
2. 補 助 金	1,719,000 円	市補助金＝919,000 円（調整額 20 万円を含む） 市民憲章補助金＝800,000 円
3. 寄 付 金	1,000 円	
4. 雑 収 入	1,000 円	
5. 繰 越 金	105,000 円	大島コミセン地域づくりの会から充当
合 計	2,591,000 円	

歳出の部

項 目	予 算 額	説 明
1. 会 議 費	149,000 円	
(1)総 会 費	25,000 円	総会関係諸経費
(2)役員会費	80,000 円	役員会議費等
(3)実践部運営 委員会費	10,000 円	実践部運営委員会費等
(4)広報委員会費	24,000 円	広報委員会費等
(5)監査委員会費	10,000 円	監査委員会費等
2. 事 務 費	345,000 円	
(1)需 用 費	50,000 円	一般事務用品購入費等
(2)役 務 費	25,000 円	通信費（はがき等）
(3)地域づくり 連絡会議費	60,000 円	6 地区連絡協議会議費等
(4)旅 費	5,000 円	
(5)会長交際費	25,000 円	
(6)慶 弔 費	30,000 円	
(7)印 刷 費	30,000 円	印刷物及び印刷用具費等
(8)組織運営費	120,000 円	
3. 事 業 費	1,020,000 円	
(1)広報事業費	220,000 円	地域広報紙の発行（3/年）
(2)役員研修費	90,000 円	先進地の視察研修費
(3)運動会費	300,000 円	
(4)コミュニティ祭費	160,000 円	
(5)記念事業費	250,000 円	地域づくりの会設立事業費
4. 活 動 費	970,000 円	
(1)体育部会費	280,000 円	運動会外
(2)文化部会費	190,000 円	文化教室外
(3)安全福祉部会費	180,000 円	交通安全・危険箇所パトロール外
(4)青少年部会費	160,000 円	青少年主張大会外
(5)環境部会費	160,000 円	環境パトロール・空き缶回収外
5. 予 備 費	107,000 円	
合 計	2,591,000 円	

歳入合計 2, 5 9 1, 0 0 0 円

歳出合計 2, 5 9 1, 0 0 0 円

上記のとおり提案します。

平成6年5月14日

田彦中学区地域づくりの会
会 長 印

「地域づくりの会」の設立準備に貢献された方々（準備委員会）

小 林 敬	西大島自治会長	平 野 栄	子供会連合会
平 野 進	田彦自治会長	吉 本 栄 子	子供会連合会
鴨志田 信 三	外野自治会長	平 田 京 子	子供会連合会
小 林 節	大島コミセン地区 地域づくりの会副会長	佐々木 美代子	子供会連合会
平 野 和 男	西大島副自治会長	吉 田 茂 子	市体育指導員
村 上 好 郎	田彦副会長	酒 井 隆	保 護 司
鹿志村 実	自治会関係者	藤 咲 実	自治会関係者
館 野 久 夫	青少年相談員	橋 本 五 郎	地域スポーツ指導員
勝 村 清 子	大島コミセン地区 地域づくりの会実践部	小蘭井 すみ子	地域スポーツ指導員
上 村 セ ツ	大島コミセン地区 地域づくりの会実践部	武 藤 守	消防団関係者
福 田 秀 夫	学識経験者	川 崎 房 代	婦人学級関係者
高 橋 利 行	田彦小PTA会長	村 田 実	学識経験者
石 川 重三郎	外野地区老人会会長	大 輪 保 弘	学識経験者
永 井 松 男	民生委員	平 野 勝 美	学識経験者
鈴 木 泰 治	商工会支部長	渡 辺 恒 美	民生委員
高 橋 恵 子	子供会連合会	大 隅 悦 子	子供会連合会
川 端 かおる	子供会連合会	半 間 純 子	子供会連合会
岡 部 恵美子	子供会連合会	鴨志田 桂 子	子供会連合会
二 川 進	市体育指導員	円 谷 昇 子	市体育指導員
平 野 保	市体育指導員	松 本 由美子	大島コミセン地区 地域づくりの会実践部
磯 貝 英 夫	大島コミセン地区 地域づくりの実践部	鈴 木 邦 道	保 護 司
二 瓶 利 男	地域スポーツ指導委員	矢 口 良 雄	地域スポーツ指導委員
村 上 隆	地域スポーツ指導委員	岡 本 美智子	地域婦人部関係者
高 木 利 男	自治会関係者	萩 谷 勅 子	民生委員
横 山 知 良	自治会関係者	鴨志田 成 男	自治会関係者
内 藤 徳 司	学識経験者	平 山 正 道	自治会関係者
平 野 逸 朗	学識経験者	藤 咲 隆	消防団関係者
勝 村 清	学識経験者	平 野 とも子	食生活改善委員
平 野 文 子	校外委員	砂 押 春	自治会館長
遠 島 恒 之	商工会支部長	平 野 尚	市議会議員
高 尾 久 子	子供会連合会	川 崎 信 一	商工会支部長
満 下 和 幸	外野副自治会長	根 本 道 直	学識経験者
大 橋 恒 雄	田彦中学校PTA会長	磯 貝 英 作	市体育協会理事
平 野 千 里	民生委員	三 枝 俊 雄	商工会支部長
内 藤 光 子	民生委員		

以上 69名

田彦中学区地域づくりの会 会則

第1章 総則

(名称、事務局)

第1条 名称は、田彦中学区地域づくりの会と称し(以下、
本会という。)、事務局を田彦コミュニティセンターに置
く。

(構 成)

第2条 本会は、田彦中学区を対象とし、その住民をもつ
て構成する。

2 本会の運営上、別表第1に掲げる自治区割りとする。

(目 的)

第3条 本会は、住民が自ら生きがいと、うるおいのある
生活を目ざすと共に、心豊かな郷土づくりを進めることを
目的とする。

(事 業)

第4条 本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を
行う。

- (1) 地域づくりについての調査研究
- (2) 地域づくり実践活動及び広報活動
- (3) 地域づくりを実践する団体及び住民の活動推進
- (4) その他本会の目的達成に必要な事業

(組 織)

第5条 本会の組織を別表第2に示す。

第2章 役員等

(役 員)

第6条 本会に次の役員を置く

- | | |
|-------------------------|-----|
| (1) 会長 | 1名 |
| (2) 副会長 | 2名 |
| (3) 監事 | 2名 |
| (4) 地区委員(委員長および副委員長を含む) | 10名 |
| (5) 部会長(部長および副部長を含む) | 5名 |
| (6) 副部会長(同上) | 7名 |
| (7) 広報委員長 | 1名 |
| (8) 広報副委員長 | 1名 |
| (9) 事務局長 | 1名 |

(役員の選出)

第7条 会長、副会長及び監事の選出は、選考委員会にお
いて候補者を選考、役員会に推挙し総会の承認を得るもの
とする。

(2) 選考委員会は、別表第1各地区の推薦者及び実践
部会からの2名で構成し、庶務に事務局1名を加え
る。

(3) 選考委員会の委員長及び副委員長は委員から選出

する。

2 地区委員は、別表第1に定めるところにより選出さ
る。

(2) 地区委員長及び地区副委員長は地区委員会におい
て選出する。

3 実践部長及び実践副部長は、実践部運営委員会において選
出する。

4 部会長及び副部会長は、それぞれの部会において選出
する。

5 広報委員会の委員長及び副委員長は、広報委員会にお
いて選出する。

6 事務局長は、会長が指名し役員会で承認を得る。

(役員の任期)

第8条 役員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただ
し、補欠による役員の任期は、前任者の残任期間とする。

(役員の任期の特例)

第9条 役員は、前条の規定にかかわらず、その任期が満
了した後においても後任者が就任するまでは、その任務を
行うものとする。

(役員の職務)

第10条 会長は、本会を代表し、会の運営の全てについ
て責任をもつ。

2 副会長は、会長を補佐し、会長が事故あるときは、あ
らかじめ会長が定めた副会長が責任をもつ。

3 地区委員長は、地区委員会を代表し、地区委員会の運
営のすべてについて責任をもつ。

4 地区副委員長は、地区委員長を補佐し、地区委員長が
事故あるときはその職務を代行する。

5 地区委員は、自治会の自治組織との連絡調整及び地区
活動の推進・本会の事業の推進にあたる。

6 実践部長は、実践部運営委員会を代表し、実践運営委
員会の運営の全てについて責任をもつ。

7 実践副部長は、実践部長を補佐し、実践部長が事故あ
るときは、あらかじめ実践部長が定めた実践副部長がそ
の職務を代行する。

8 部会長は、部会を代表し部会の全てのことについて責
任をもつ。

9 副部会長は、部会長を補佐し、部会長が事故あるとき
は、その職務を代行する。

10 広報委員長は、広報委員会を代表し、広報委員会運
営の全てについて責任をもつ。

11 広報副委員長は、広報委員長を補佐し、広報委員長
が事故あるときは、その職務を代行する。

12 事務局長は、事務局を統括し、その運営につとめ
る。

(監 事)

第11条 本会に監事を置く。

- 2 監事は、本会の会計及び業務を監査し、その結果を役員会及び総会に報告するものとする。
- 3 会長が必要と認めるときは、部会の会計及び業務を監査し、その結果を会長に報告するものとする。

(顧 問)

第12条 本会に顧問を置くことができる。

- 2 顧問は、役員会の承認を得て、会長が委嘱する。
- 3 顧問は、本会の運営上必要な事項に関し、会長の諮問に応ずるものとし、必要に応じ会長に意見を述べる事が出来る。
- 4 顧問の任期は、当該顧問を委嘱した会長の任期と同一期間とする。

第3章 会議

(会 議)

- 第13条 会議は、総会、役員会、地区委員会、実践部運営委員会、部会及び広報委員会とする。
- 2 会議は、構成員の過半数の出席をもって成立し、議事は、構成員の過半数をもって可決し、可否同数の時は、議長の決するところによる。

(総 会)

- 第14条 総会は、別表第3に掲げるものをもって構成し、年1回以上開催するものとする。
- 2 総会は、会長が招集し、議長は出席者の中から選出する。
- 3 総会は、次の事項を審議決定する。
- (1) 会則の改正に関すること
 - (2) 事業報告及び決算に関すること
 - (3) 事業計画及び予算に関すること
 - (4) その他会長が必要と認めたこと

(総会の書面表決)

- 第15条 会長は、次の各号に掲げる事項のいずれかに該当するため会議の開催が困難であると認めたときは、会議の開催に代え、書面表決により議事の審議決定を行うことができる。
- (1) 大規模な災害が発生し、もしくは発生する恐れがあるとき。
 - (2) 感染症、伝染病など重大な疾病が蔓延し、もしくは蔓延する恐れがあるとき。
 - (3) その他やむを得ない理由があるとき。
- 2 書面表決の議事は、提出された書面表決書の過半数をもって決し、可否同数のときは、会長の決定するところによる。

(役員会)

- 第16条 役員会は、監事を除く第6条に定める役員をもって構成し、会長が必要と認めたとき開催するものとする。
- 2 役員会は、会長が招集し、会長が議長となる。
- 3 役員会は、次の事項について審議し、またはその執行にあたり、本会事業の円滑な推進を図る。
- (1) 総会に提出する事案に関すること
 - (2) 総会において決定された事項の執行に関すること
 - (3) 実践部運営委員会及び地区委員会より提出された事案の処理に関すること
 - (4) その他会長が必要と認めたこと

(地区委員会)

- 第17条 地区委員会は別表第1表に示す地区委員をもって構成する。
- 2 委員会は、地区委員長が必要と認めたとき、開催するものとする。
- 3 委員会の審議事項は次のとおりとする。
- (1) 役員会に提出する事項に関すること。
 - (2) 当該地区内の自治組織との連絡調整ならびに地区活動の推進に関すること。
 - (3) 市民会議の運営
 - (4) その他

(実践部運営委員会)

- 第18条 実践部運営委員会（以下、運営委員会という。）は、各部部长、副部部长及び事務局1名をもって構成する。
- 2 運営委員会は、実践部長が必要と認めたとき、開催するものとする。
- 3 運営委員会は、実践部長が招集し、実践部長が議長となる。
- 4 運営委員会は、必要に応じ会長の出席を求めることができる。
- 5 運営委員会は、次の事項について協議し、またはその執行にあたり本会事業の円滑な推進につとめる。
- (1) 役員会に提出する事業に関すること
 - (2) 各部部长間の事業の調整に関すること
 - (3) 会長から提出された事案の処理に関すること
 - (4) 部会から提出された事案の処理に関すること
 - (5) その他実践部長が必要と認めたこと
- 6 実践部長は、運営委員会の会議の経過並びにその結果について、その都度会長に報告しなければならない。

(総会提出事業の専決処分)

- 第19条 補正予算及び事業計画の変更については、会長は総会を開催するいとまがないときは、役員会の決定にもとづき専決処分することができる。この場合、専決処分し

た事項については、間近の総会に報告し、承認を得なくてはならない。

(部 会)

第20条 本会は、別表第4に定める部会を置く。

2 部会の運営に必要な規定は、それぞれの部会で定める。

3 部会長は規定を定めたとき、及びその規定を改廃したときは、遅滞なく実践部長に報告し、役員会で決定する。部会の役員、事業計画並びに予算を決定したとき、もしくは、それらに変更があった場合も同様とする。

4 部会は、会長及び実践部長の指示または実践部運営委員会の協議にもとづき部会の活動の円滑な推進をはかるため協議し、事業の適切な実施に努めるものとする。

5 部会長は、部会の事業の実施について特に重要な事項は、その都度実践部長に報告しなければならない。

(広報委員会)

第21条 本会に、会報を編集発行するため広報委員会を置く。

2 広報委員会の委員は、別表第1に定める各地区、各部会から1名選出し、事務局1名を加える。

3 第6条及び第7条の規定は、広報委員会の委員にこれを準用する。

第4章 実行委員会の設置

(実行委員会)

第22条 会の活動を効率的に行うため、会長は必要に応じて、実行委員会等を設けることができる。

第5章 事務局

(事務局)

第23条 事務局に事務局長のほか次の事務局員を置く。

(1) 会計 1名

(2) 書記 1名

2 前項の事務局員は、役員会の承認を得て会長が任命する。

3 事務局員は事務局長の指示を受け、主として次の事務を行う。

(1) 事業計画、予算及び本会の運営事務に関すること

(2) 事業報告、決算に及び出納に関すること

(3) 事務連絡に関すること

(4) その他、本会の運営に関すること

第6章 会計

(会 計)

第24条 本会の運営に要する経費は、会費、補助金、寄付金及びその他の収入をもってあてる。

(会計年度)

第25条 本会の会計年度は毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

(委 任)

第26条 この会則に定めるもののほか、本会の運営に必要な事項については役員会の協議を経て、会長が別に定める。

付則 この会則は、平成6年5月14日から施行する。

付則 平成17年4月16日一部改正する。

付則 平成18年4月15日一部改正する。

付則 平成19年4月14日一部改正する。

付則 平成24年4月14日一部改正する。

付則 平成27年4月11日一部改正する。

付則 平成31年4月20日一部改正、施行する。

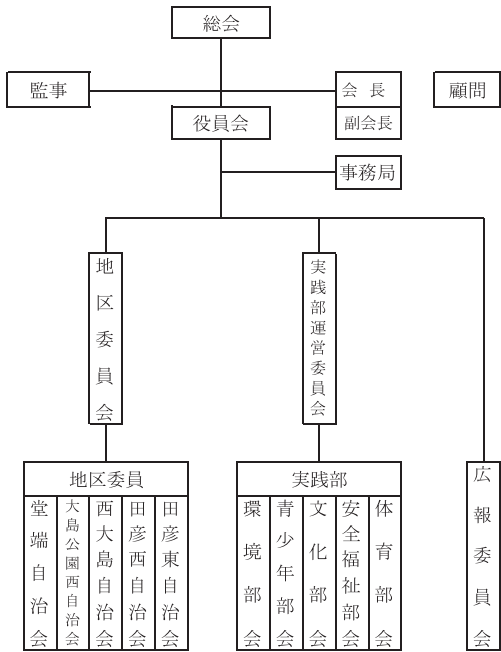
付則 令和2年4月18日一部改正(監事)する。

付則 令和4年4月16日一部改正(書面表決)する。

別表第1 地区委員とその選出方法

地 区 委 員		
地区名称	定数	選出方法
田 彦 東 自 治 会	2名	(地区内の会長、副会長とする。)
田 彦 西 自 治 会	2名	
堂 端 自 治 会	2名	
西 大 島 自 治 会	2名	
大島公園西自治会	2名	

別表第2 田彦中学区地域づくりの会 組織図



別表第3 構成員一覧表

no.	役職名	定数	備考
1	本会役員	30	
2	各自治会班長	39	H31/4月現在
3	県営田彦自治会	1	
4	民生委員児童委員・主任児童委員	5	自治会1名
5	青少年相談員	5	自治会1名
6	地域スポーツ指導員	10	自治会2名
7	交通安全協会分会	1	
8	田彦小交通安全母の会	1	
9	田彦小子供会育成会	1	
10	各高齢者クラブ	5	
11	田彦中PTA	1	
12	田彦小PTA	1	
13	食生活改善推進員	1	
14	保健推進員	5	自治会1名
15	女性学級	1	
16	田彦コミセン利用者団体協議会	2	
17	消防第3分団	1	
計		110	

別表第4 実践部の組織

実践部 運営委員会		部長	副部長
(部会名)	(役職)	(活動指針)	
体育部会	部 会 長	・地域住民の健康づくりの推進 ・地域の体育スポーツ、レクリエーション活動を促進し、地域住民の体力づくりと心身の健康増進を図る	
	副部会長		
安全福祉部会	部 会 長	・福祉ボランティア活動をととして、住民相互の福祉向上を図り、交通事故の危険箇所等による災害をなくし、安全で快適なまちづくりの促進を図る	
	副部会長		
文化部会	部 会 長	・地域住民の芸術文化に親しみ、また芸術文化活動を通じて心豊かな生活がおくれるよう活動の推進を図る	
	副部会長		
青 少 年 部 会	部 会 長	・青少年の非行防止の促進 ・地域内の連帯意識の醸成につとめ、子供達とのふれあいの場をつくり、非行防止を図るために青少年健全育成活動を推進する	
	副部会長		
環境部会	部 会 長	・地域環境美化の促進 ・地域の環境美化省資源運動を進めながら地域の環境を浄化し、うるおいのある健全で文化的な生活環境の確保を図る	
	副部会長		

利用者 活動風景



絵手紙仲よし会



えむずくらぶ(ヨガ)



おりがみ 和みの会



着付けクラブ



子育てサロン たびこ



ポップ・キッズ・アート(こども絵画教室)



市生涯学習講座(イギリス文学)



樹脂粘土 スイトピー



シルバーリハビリ体操



スポーツウェルネス 吹矢・田彦



田彦囲碁愛好会



田彦カラオケ教室



田彦写真クラブ



田彦女性学級



田彦中学区 卓球スポーツ少年団



田彦フォークダンスクラブ



ひまわりクラブ(Jダンス)



めざせ! いきいき健康体操



ランタナヨガ



レ ミューズ(合唱)

今回のご紹介は一部となりましたこととお詫びいたします。

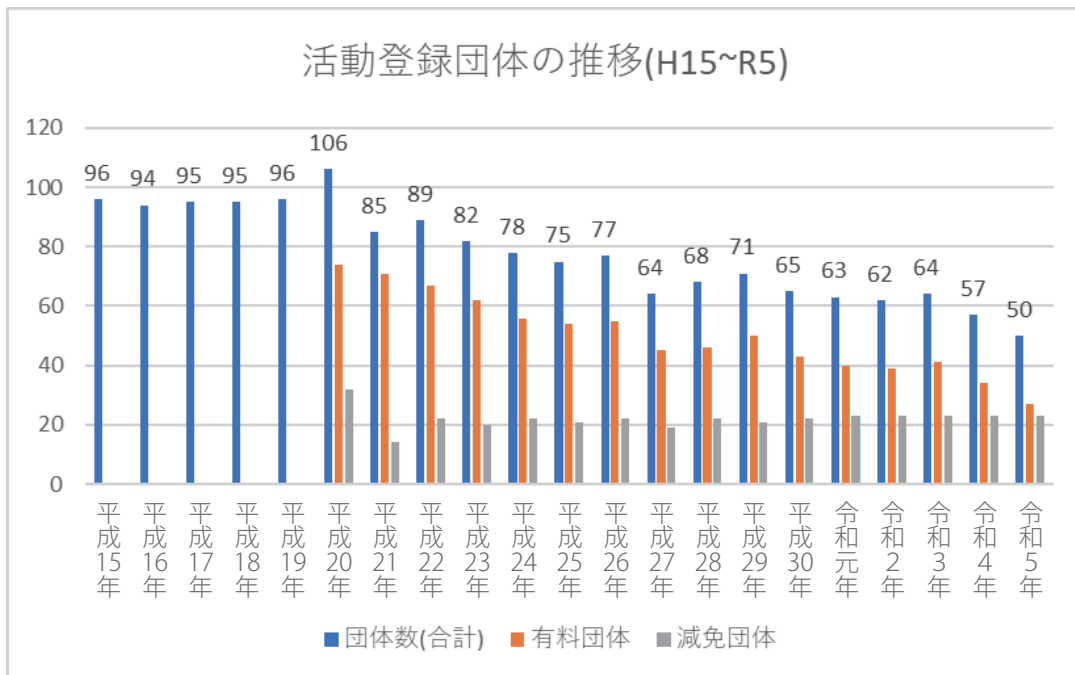
■田彦コミュニティセンター利用について

田彦地区の生涯学習の拠点として平成6年3月に田彦公民館が開設されました。

利用は、あらかじめ登録した団体等の利用を原則としています。それぞれの団体が自主的に活動計画等を立て自己研鑽に励んでいます。

また、田彦中学区の自治会や高齢者クラブ・子ども会等の活動の拠点として、利用されています。平成25年度から田彦コミュニティセンターに改名し、施設管理運営が田彦中学区地域づくりの会に移管されました。

■利用(登録)団体の推移



■センター運営委員会

「センターの規定する事業を円滑に推進するため、センター運営委員会を置く」と定められています。センター運営委員会は年2回開催し、利用者目線での多様なご意見等を伺い、管理運営に生かしています。

令和4~5年度センター運営委員会委員

役 職	氏 名	所 属
委員長	山 田 謙 司	地区代表
副委員長	福 有 義 裕	地区代表
委 員	森 隆	地区代表
委 員	守 永 大 策	利用団体代表
委 員	斉藤美恵子	利用団体代表
事 務 局	内 田 雅 恵	センター長
	事務局3名	

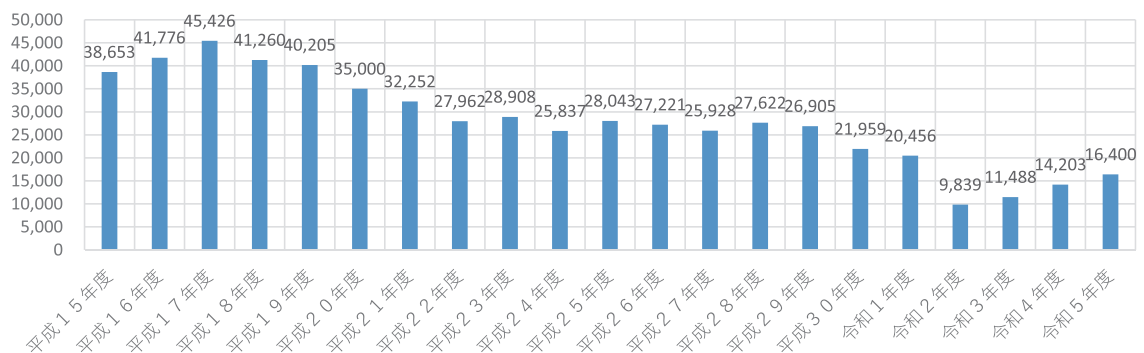
認知症の人にやさしい事業所取得



■田彦コミュニティセンター利用状況の推移

年 度	利用人数	部屋使用 件数	うち有料 使用部屋数	部屋貸出 賃料(円)	うち減免 使用部屋数	部屋減免額 (円)	図書(本) 貸出利用 者数	図書(本) 貸出冊数	図書(室) 利用者数	備 考
平成15年度	38,653	2,216					444	1,103		
平成16年度	41,776	2,464					253	617		
平成17年度	45,426	2,616					145	367		
平成18年度	41,260	2,579					140	206		
平成19年度	40,205	2,528					132	389		
平成20年度	35,000	3,559	2,496	2,743,440	1,275	1,251,010	139	432		部屋の有料化 開始
平成21年度	32,252	3,414	2,255	2,486,960	1,337	1,338,510	139	434		
平成22年度	27,962	3,071	2,084	2,163,470	1,368	1,363,900	129	322		
平成23年度	28,908	3,092	1,854	1,772,970	1,467	1,470,260	132	273		
平成24年度	25,837	2,756	1,660	1,600,640	1,310	1,413,430	324	1,495		
平成25年度	28,043	2,923	1,752	1,777,890	1,302	1,359,790	215	950	596	教育委員会から 地域移管
平成26年度	27,221	2,887	1,759	1,787,820	1,288	1,370,750	129	446	595	
平成27年度	25,928	2,877	1,692	1,765,030	1,310	1,361,740	150	506	801	
平成28年度	27,622	2,862	1,654	1,791,340	1,375	1,390,110	350	1,244	777	
平成29年度	26,905	2,684	1,506	1,600,370	1,267	1,286,210	240	1,000	881	ふぁみりこらぼ 開設
平成30年度	21,959	2,448	1,335	1,323,620	1,277	1,284,200	128	499	520	
令和1年度	20,456	2,304	1,209	1,043,370	1,303	1,201,200	175	666	545	
令和2年度	9,839	1,431	1,169	639,510	1,018	793,400	132	461	329	コロナ感染症
令和3年度	11,488	1,699	1,111	685,370	1,128	820,610	50	151	371	コロナ感染症
令和4年度	14,203	2,135	1,172	880,540	1,215	896,780	56	228	294	コロナ感染症
令和5年度	16,400	2,204	1,065	791,520	1,249	894,700	36	100	495	

利用人数の推移



■田彦コミュニティセンター建物改修歴

年度	修繕内容	備考
平成 15 年	浄化槽から下水道接続工事	
平成 25 年	ホール一部壁紙張替, 空調機基盤修繕	
平成 26 年	集会室音響機器整備 駐車場ライン整備, 駐輪所屋根修繕	
平成 27 年	和室屋外縁側修繕 実習室排水管漏水修繕 ホール排煙窓修繕&排煙窓オペレーター修繕	
平成 28 年	空調機屋外施設改修 集会室 1-3 壁紙張替	
平成 30 年	屋根・外壁防水工事（雨漏り改修） 長身外灯塗装（腐食）	
令和元年	館内空調設備更新 玄関自動ドア修繕	
令和 2 年	高圧電気気中負荷開閉器(PAS)更新 会議室 1～3 壁紙張替 集会室床補修（コーティング）	
令和 3 年	第二駐車場開設（18 台収容増） トイレの手洗い蛇口の自動化(コロナ対策) カーペット改修（児童室, 会議室 2～3）’ 児童室壁紙張替（兼多目的室として使用可）’	65 台収容可
令和 4 年	和室外日差し設置 館内非常誘導灯交換（LED化） 実習室排水管洗浄(配管のサビ詰まり)	
令和 5 年	実習室排水管コーティング改修工事 実習室壁補修(地震)塗替え改修工事 キュービクル(受変電設備)更新 東側外壁玄関付近雨漏り対策工事	

(屋根・外壁防水工事)



(空調器更新工事)



(キュービクル更新工事)

30年のあゆみに寄せて

田彦中学区地域づくりの会 前事務局長

上 村 セ ツ



田彦中学区地域づくりの会が設立30周年を迎えられましたこと誠におめでとうございます。これまでの地域づくりの会の歴史を築きあげられた諸先輩の方や地域の皆様、また、新たな発展に資するために「あゆみ」を発刊されますことに敬意申し上げます。

私が地域とのつながりを持ったきっかけは、田彦に住まいを構えお隣さんや子育てのなかで先生やPTA・保護者の方々。さらに大島コミセンでの生涯学習に関わる中で、本会の設立とともに微力ながら地域づくりの会の運営に関わるチャンスをいただきました。私にとって地域活動を通じ、人との縁や多くの方々とのつながりが人生の財産となりました。人口減少や多様化する社会環境の変化に直面しております。

一方で近年、能登半島地震等にみられる大規模な自然災害のなかで、人と人や地域とのつながりの大切さが改めて知らされています。こうしたときの中心的役割に自治会や地域づくりの会があると思います。今後、ますます地域づくりの会の発展とご活躍されますことをご期待申し上げます。

編 集 後 記

「30年のあゆみ」を編さんするにあたり、当時の資料等を振り返ると多くの先人たちや関係機関の方々の英知と情熱を感じました。

先人たちが今日まで積み上げた文化的遺産や人材育成を次の世代へ託し、地域コミュニティ組織がさらに発展し根付くことを願っています。

当時と違い少子高齢化社会において、地域コミュニティ組織の必要性やあり方に変化を求められています。これからも地域の方々の英知と情熱を継承できるよう編さん致しました。発刊にあたりご協力・ご支援いただきました多くの方々に心から感謝と御礼を申し上げます。(大橋恒雄)

編 集 委 員

編集委員長	副 会 長	大 橋 恒 雄
編 集 委 員	前事務局長	上 村 セ ツ
編 集 委 員	堂端自治会副会長	福 有 義 裕
編 集 委 員	広報委員長	小 林 克 也
編 集 委 員	朝日子ども会長	二 川 あ い
編集委員兼編集事務局	事 務 局 長	平 野 一 能
編集委員兼編集事務局	事務局書記	佐 藤 哲 三

編集期間：令和5年10月～令和6年3月

発 行 日：令和6年5月吉日